Hokkaido University News

北大時報

令和5年
12

No. 837　December 2023

令和5年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏
第26回北海道大学ーソウル大学校ジョイントシンポジウムを開催
北海道大学病院創立100周年記念式典・記念講演会・記念祝賀会を挙行

No.837　令和5年

目　次　12

故 中村睦男先生を偲ぶ会を開催

全学インターンシップ成果発表会（国内）及び
経済同友会連携インターンシップ成果発表会を開催

全学ニュース

1　令和5年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏
2　大学入学共通テスト　本学一般選抜個別学力検査等　実施体制等の決定
5　フロンティア入試合格者の発表
6　国際総合入試合格者の発表
7　帰国生徒選抜合格者の発表
8　故 中村睦男先生を偲ぶ会を開催
9　令和5年度北海道大学総長奨励金留学生採用証書授与式を挙行
10　札幌商工会議所とキャリアセンターが共催で「留学生のための出張合同企業説明会in北海道大学」を開催
11　2023年度留学生のための「在留資格（ビザ）」無料相談の開催
12　全学インターンシップ成果発表会（国内）及び経済同友会連携インターンシップ成果発表会を開催
13　日本航空株式会社と航空業界を学ぶ講座を開催
14　日本学術会議と学術講演会「人間と野生生物の共生のために」を開催
15　サブサハラ・アフリカ地域対象オンライン日本留学フェアを開催
16　MIRAI2.0 Research & Innovation Week 2023に出席
17　令和5年度第7回目　定例記者会見を開催
18　北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
20　「若手技術職員先行育成プログラム」に係る職員研修を実施
21　令和5年度第2回部局・分野横断技術交流会「電気系修理技術習得のための基礎講座」を開催
22　令和5年度北海道大学進学相談会
23　創成研究機構化学反応創成研究拠点が「第12回世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）サイエンスシンポジウム」を開催
24　産学・地域協働推進機構が「まちなかロゲイニングin北海道大学」を実施～国際交流を促進する新たな取り組み～
25　Social Innovation X（クロス）2023 を開催
26　「こどもの未来のためのフォーラム」及び「第26回北海道大学－ソウル大学校ジョイントシンポジウム」を開催
35　第2回地球研・北大連携シンポジウムを開催
36　北海道大学×STV SDGsデー2023を開催
37　WOMAN EXPO 2023 Winterで北大ブランドを紹介
38　2023 年度古河講堂パープルライトアップを実施
39　「国民との科学・技術対話」支援事業　アカデミックファンタジスタ　札幌南高校にて7名の研究者が講義を実施

部局ニュース

41　経済学研究院・経済学院・経済学部で令和5年度外国人留学生懇親会を開催
42　経済学部が札幌国税局長の特別講演会を開催
43　保健科学研究院公開講座「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」を開催
44　令和5年度　医理工学院修士課程研究発表会
45　令和5年度　薬学部成績優秀賞授与式を挙行
46　工学系部局で安全衛生管理講演会を開催
46　函館キャンパスで防災訓練を実施
47　メディア・コミュニケーション研究院がシンポジウム「多層言語環境社会におけるCommunicationとMediation」を開催
48　国際広報メディア・観光学院が、メルボルン大学・ヘルシンキ大学・デュッセルドルフ大学及びヴィクトリア大学ウェリントンとの教育・研究交流「TLLPスタディ・ウィーク」を開催
49　環境科学院・地球環境科学研究院でFD研修会を開催
50　人獣共通感染症国際共同研究所と創成研究機構ワクチン研究開発拠点が国際シンポジウム「第11回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議」を開催
51　スラブ・ユーラシア研究センター公開講座「どうなる？どうする？ 日露関係」を開催
52　情報基盤センター創立20周年記念式典及び記念講演会を開催
53　ニュージーランド大使館・りんご視察団一行が余市果樹園を視察
54　「脳科学研究教育センター創立20周年記念シンポジウム」の開催
55　パネル企画展示「カラフトナヨロ惣乙名文書（ヤエンコロアイヌ文書）展」を開催
56　北海道大学病院創立100周年記念式典・記念講演会・記念祝賀会を挙行

表敬訪問　57

訃報

58　名誉教授　栗原　堅三　氏
58　名誉教授　梅田　安治　氏

資料

59　令和5年度外国人留学生数（令和5年11月1日現在）
60　令和5年度国別外国人留学生数（令和5年11月1日現在）
61　北大時報掲載記事事項一覧（令和5年掲載分）

日本学術会議と学術講演会
「人間と野生生物の共生のために」を開催

「まちなかロゲイニングin北海道大学」を実施
～国際交流を促進する新たな取り組み～

第26回北海道大学－ソウル大学校
ジョイントシンポジウムを開催

2023 年度古河講堂パープルライトアップを実施

表　紙：北海道大学病院創立100周年記念式典・記念講演会・記念祝賀会を挙行（関連記事57頁に記載）
裏表紙：キャンパス風景㊺　南門（北8条西6丁目）

全学ニュース

令和5年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏

本年度の医学教育等関係業務功労者として、本学から北海道大学病院看護部副看護師長の長嶋和子氏、北海道大学病院医療技術部放射線部門副診療放射線技師長の山下道明氏が表彰されました。

この表彰は、文部科学省が毎年、医学または歯学に関する教育・研究若しくは患者診療等の補助的業務に従事し、顕著な功労のあった方々に対して行うものです。

各氏の表彰にあたっての感想を紹介します。

（社会共創部広報課）

北海道大学病院　看護部
副看護師長
長嶋（ながしま）　和子（かずこ）　氏

この度、文部科学省の医学教育等関係業務功労者として表彰を賜り、身に余る栄誉と深く感謝致します。また、表彰にあたりご推薦、ご尽力いただきました関係各位の皆様に心よりお礼申し上げます。

私は平成2年に北海道大学医学部附属病院に入職し33年間勤務させていただきました。入職後は消化器・血液内科病棟、整形外科病棟、リハビリテーション科病棟、小児科外来・病棟、皮膚科形成外科神経内科病棟を経て現在耳鼻咽喉科・頭頚部外科病棟で勤務させていただいています。

リハビリテーション科では病棟開設に携わり、大学病院におけるリハビリテーション看護の構築に努めました。また、小児科病棟では北海道の小児がん拠点病院に認定され、小児のがん看護の実践力の向上に取り組んできました。各病棟においてがん患者が多く占めており、化学療法や手術など侵襲の大きな治療を受ける患者に対して、迷い、悩んだりすることも多々ありました。しかし、患者一人一人に困難を乗り越えていく力があり、それを支え、その力を伸ばしていくのが看護であると考え、日々の勤務に努めてきました。いずれの病棟においても、チーム医療の大切さを学び、医師をはじめ栄養士、薬剤師、リハビリスタッフ、また小児科病棟においては保育士やCLSなど多数のスタッフと協力してこそ、より良い医療・看護の提供ができると感じました。

平成27年に院内認定の指導看護師としての活動を開始し、部署の教育上の問題の把握と解決に努めました。近年は感染症の発生により実習時間が短縮された新人看護師や学生も多くおり、指導・教育の内容も相手に合わせ変化させる必要性を感じています。今後医療の高度化に合わせて、看護師もより良い看護を提供していけるよう更なる発展のため尽力していきたいと思います。

最後になりましたが、ご指導いただきました看護部長、副看護部長、看護師長や同僚の方々に深く感謝申し上げます。

（北海道大学病院）

北海道大学病院　医療技術部
放射線部門
副診療放射線技師長
山下（やました）　道明（みちあき）　氏

この度、文部科学省の医学教育等関係業務功労者表彰を賜り、身に余る光栄と深く感謝申し上げます。また、表彰にあたりご推薦、ご尽力いただきました関係者の皆様に心より厚くお礼申し上げます。

私は平成10年に北海道大学医学部附属病院に入職してから今年で26年目になります。2年目に放射線部は現病院に移転になり、担当していたCT部門では当時最先端のマルチスライスCTが導入されました。ちょうど同じころ、はじめて学会に参加させていただいたのをきっかけに、マルチスライスCTの物理特性の研究に、のめりこんでいきました。それからの十数年間というものは、毎年春と秋の日本放射線技術学会や日本医学物理学会などで発表をすることを自分に課していました。学会のたびに寝る間も惜しんで、実験やデータ解析に勤しみました。北米放射線学会（RSNA）やIEEEといった海外の学会に参加させていただいたこともありました。こうして続けてくることができたのも上司や同僚そして家族の理解と協力のおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。

元来がシングルタスク人間なので、その後、管理的な仕事を任されてからは、サポートする側に回って後輩たちの活躍を見守ってきました。

きわめて私的なことになりますが、ここ数年は体調を崩して1年余りの休職も経験しました。この間は同僚や家族には大変な心配や負担をかけてしまったことをこの場をお借りしてお詫びするとともに、感謝の気持ちを伝えられればと思います。職場復帰して間もなく届いた今回の吉報には「もう少し頑張れ」と励まされ勇気づけられた様な気がしました。

最後になりましたが、これまでお世話になりました諸先輩方、同僚、スタッフの皆様に心より感謝申し上げます。

（北海道大学病院）

大学入学共通テスト　本学一般選抜個別学力検査等　実施体制等の決定

11月24日（金）開催のアドミッションセンター試験場部会拡大会議において、令和6年度大学入学共通テスト及び本学一般選抜個別学力検査等に係る実施体制等を決定しました。

なお、大学入学共通テストについては、藤女子大学、天使大学、東海大学札幌キャンパス、北海道武蔵女子短期大学との共同実施となります。

主な事項は、次のとおりです。

（学務部入試課）

大学入学共通テスト

1　実施本部の設置

試験実施について総括し、連絡・調整するため実施本部を設け、その下に総務部、試験場部、救急医療部、連絡部及び広報部を置く。

2　試験場及び担当学部

（札幌市）

試験場・会場	試験場所	担当学部等
北海道大学試験場		
農学部会場	農学部	農学部
人文・社会科学総合教育研究棟会場	人文・社会科学総合教育研究棟	※経済学部・法学部
理学部会場	理学部	理学部
工学部会場	工学部	工学部
高等教育推進機構A会場	高等教育推進機構E棟2階	※文学部・教育学部
高等教育推進機構B会場	高等教育推進機構E棟3階	※歯学部・薬学部
保健科学研究院会場	保健科学研究院	※獣医学部・医学部
高等教育推進機構N会場	高等教育推進機構N棟2階	実施本部・武蔵女子短大
藤女子大学試験場	藤女子大学	※東海大学・藤女子大学・天使大学

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部

（函館市）

試験場	試験場所	担当学部
北海道大学水産学部試験場	水産学部	水産学部

なお、ELMSを用いたオンデマンド形式でリスニング担当者説明会及び監督者説明会を開催しますので、監督者等となった方は必ず閲覧願います。

本学一般選抜個別学力検査等

1　実施本部の設置

試験実施について総括し、連絡・調整するため実施本部を設け、その下に総務部、出題部、採点部、試験場部、救急医療部、連絡部及び広報部を置く。

2　試験場及び担当学部

前期日程

試験場	試験場所	担当学部
第1試験場（農学部）	農学部	農学部
第2試験場（人文・社会科学総合教育研究棟）	人文・社会科学総合教育研究棟	※教育学部・文学部
第3試験場（理学部）	理学部	理学部
第4試験場（工学部）	工学部	工学部
第5試験場（高等教育推進機構E棟1階、2階）	高等教育推進機構E棟1階、2階	※医学部・獣医学部
第6試験場（高等教育推進機構E棟3階）	高等教育推進機構E棟3階	※薬学部・歯学部
第7試験場（保健科学研究院）	保健科学研究院	※法学部・経済学部
第8試験場（高等教育推進機構N棟2階）	高等教育推進機構N棟2階	実施本部

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部

（上記8試験場で受験者を収容できない場合、別の試験場を設けることがある。）
（第5試験場は、Sky HALL（高等教育推進機構大講堂）、N1、N2の教室を含む。）
（第5試験場の2日目は医学部が担当する。）
（第6試験場の2日目は歯学部が担当する。）

後期日程

試験場	試験場所	担当学部
第1試験場（農学部）	農学部	農学部
第2試験場（人文・社会科学総合教育研究棟）	人文・社会科学総合教育研究棟	※経済学部・法学部
第3試験場（理学部）	理学部	理学部
第4試験場（薬学部）	薬学部	薬学部
第5試験場（工学部）	工学部	工学部
第6試験場（高等教育推進機構E棟1階、2階、3階）	高等教育推進機構E棟1階、2階、3階	※文学部・教育学部
第7試験場（獣医学部）	獣医学部	獣医学部
第8試験場（水産学部）	水産学部	水産学部
第9試験場（高等教育推進機構N棟2階）	高等教育推進機構N棟2階	実施本部

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部

なお、ELMSを用いたオンデマンド形式で監督者説明会を開催しますので、前期日程又は後期日程において、監督者等となった方は必ず閲覧願います。

令和6年度入試実施日程表

種類		出願期間等	選考期日（試験日）		合格発表日	入学手続期間	選考方法
フロンティア入試	フロンティア入試TypeⅠ（大学入学共通テストを課す）（理学部（地球惑星科学科）、医学部（医学科、保健学科（看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻））、歯学部、工学部（応用理工系学科（応用マテリアル工学コース）、環境社会工学科（社会基盤学コース））、水産学部））	学生募集要項公表 R5.5.31（水）～公表中 インターネット出願登録期間 R5.9.8（金）～9.20（水）	第1次選考	書類選考	R5.11.6（月）	R6.2.14（水） ～2.19（月）	個別学力検査を免除し、大学入学共通テスト、課題論文等及び面接を課す。
			第2次選考	R5.11.19（日） 課題論文等、面接	R5.12.7（木） （医（保）除く）		
			最終合格	R6.1.13（土） ～1.14（日） 大学入学共通テスト	R6.2.13（火）		
	フロンティア入試TypeⅡ（大学入学共通テストを課さない）（理学部（数学科、物理学科、化学科、生物科学科（高分子機能学専修分野））、工学部（応用理工系学科（応用物理工学コース）、機械知能工学科、環境社会工学科（環境工学コース）））		第1次選考	書類選考	R5.11.6（月）	R5.12.11（月） ～12.14（木）	大学入学共通テスト及び個別学力検査を免除し、適性試験及び面接を課す。
			第2次選考	R5.11.19（日） 適性試験、面接	R5.12.7（木）		
国際総合入試		学生募集要項公表 R5.5.31（水）～公表中 インターネット出願登録期間 R5.9.13（水）～10.5（木）	第1次選考	書類選考	R5.11.6（月）	R5.12.11（月） ～12.14（木） ただし、条件付合格の場合は R6.2.14（水） ～2.19（月）	大学入学共通テスト及び個別学力検査を免除し、面接を課す。
			第2次選考	R5.11.19（日） 面接	R5.12.7（木） ただし、条件付合格の場合の最終合格発表 R6.2.13（火）		
帰国生徒選抜		学生募集要項公表 R5.5.31（水）～公表中 インターネット出願登録期間 R5.9.13（水）～10.5（木）	第1次選考	書類選考	R5.11.6（月）	R5.12.11（月） ～12.14（木）	大学入学共通テスト及び個別学力検査を免除し、課題論文等及び面接を課す。
			第2次選考	R5.11.19（日） 課題論文等、面接	R5.12.7（木）		
私費外国人留学生（学部）入試		学生募集要項公表 R5.5.31（水）～公表中 インターネット出願登録期間 R5.9.22（金）～10.5（木）	第1次選考	書類選考	R5.11.6（月）	R5.12.11（月） ～12.14（木）	大学入学共通テストを免除し、各学部が指定する「第2次選考の実施科目等」及び日本留学試験を課す。
			第2次選考	R5.11.19（日） 小論文等、面接	R5.12.7（木）		
大学入学共通テスト		受験案内公表 R5.9.1（金）～公表中 出願期間 R5.9.25（月）～10.5（木）	本試験	R6.1.13（土） ～1.14（日）			
			追試験	R6.1.27（土） ～1.28（日）			※本試験が実施できなかった場合に行う。
一般選抜	前期日程	学生募集要項公表 R5.10月下旬公開（予定） インターネット出願登録期間 R6.1.15（月）～2.2（金）	第1段階選抜	大学入学共通テストの成績による（志願者が多い場合）	R6.2.13（火）	R6.3.7（木） ～3.15（金）	大学入学共通テスト及び個別学力検査等を課す。
			第2段階選抜	R6.2.25（日） 個別学力検査 R6.2.26（月） 面接（医学部医学科、歯学部）	R6.3.6（水）		
	後期日程		第1段階選抜	大学入学共通テストの成績による（志願者が多い場合）	R6.2.28（水）	R6.3.22（金） ～3.27（水）	大学入学共通テスト及び個別学力検査等を課す。
			第2段階選抜	R6.3.12（火） 個別学力検査等	R6.3.21（木）		
令和6年度 私費外国人留学生（現代日本学プログラム課程）入試 （令和6年4月入学）	第1期募集	学生募集要項公表 R5.8.22（火）～公表中 インターネット出願登録期間 R5.10.26（木）～11.17（金）		R6.1.9（火） ～R6.1.16（火） 書類選考、面接	R6.2.13（火）	R6.2月	書類選考及び面接を課す。
	第2期募集	学生募集要項公表 R5.8.22（火）～公表中 インターネット出願登録期間 R6.2.1（木）～R6.2.22（木）		R6.4.5（金） ～R6.4.12（金） 書類選考、面接	R6.5.14（火）	R6.5月	
私費外国人留学生（Integrated Science Program（学士課程））入試 （令和6年10月入学）		学生募集要項公表 R5.8.22（火）～公表中 インターネット出願登録期間 R5.11.15（水）～11.30（木）	第1次選考	書類選考	R6.2.7（水）	R6.3月	書類選考及び面接を課す。
			第2次選考	R6.2.19（月）～ R6.3.1（金） 面接	R6.3.22（金）		

（学務部入試課）

フロンティア入試合格者の発表

令和6年度フロンティア入試（総合型選抜）は、募集人員144名（TypeⅠ：78名、TypeⅡ：66名）に対し、352名（TypeⅠ：126名、TypeⅡ：226名。昨年度から13名減少）の出願がありました。自己推薦書、個人評価書等の出願書類による第1次選考合格者に対して、11月19日（日）に第2次選考の課題論文、適性試験及び面接試験を実施し、12月7日（木）に合格者発表が行われ、TypeⅡでは56名が最終合格となりました。

なお、大学入学共通テストを課すTypeⅠの最終合格者発表は、2月13日（火）を予定しています。

（学務部入試課）

令和6年度フロンティア入試合格者数等一覧

学部・学科等				募集人員	志願者数	倍　率	第２次選考合格者数	最終合格者数
TypeⅠ	理学部地球惑星科学科			5	17　(4)	3.4	5　－	2/13に発表
TypeⅠ	医学部	医学科		5	9　(2)	1.8	2　(2)	2/13に発表
TypeⅠ	医学部	保健学科	看護学専攻	7	4　(3)	0.6	2/13に発表	2/13に発表
TypeⅠ	医学部	保健学科	放射線技術科学専攻	7	2　(0)	0.3	2/13に発表	2/13に発表
TypeⅠ	医学部	保健学科	検査技術科学専攻	10	5　(4)	0.5	2/13に発表	2/13に発表
TypeⅠ	医学部	保健学科	理学療法学専攻	4	7　(2)	1.8	2/13に発表	2/13に発表
TypeⅠ	医学部	保健学科	作業療法学専攻	7	0　(0)	0.0	－　－	－　－
TypeⅠ	歯学部			5	9　(4)	1.8	5　(2)	2/13に発表
TypeⅠ	工学部	応用理工系学科（応用マテリアル工学コース）		4	6　(3)	1.5	4　(1)	2/13に発表
TypeⅠ	工学部	環境社会工学科（社会基盤学コース）		4	4　(1)	1.0	3　(1)	2/13に発表
TypeⅠ	水産学部			20	63　(12)	3.2	20　(2)	2/13に発表
TypeⅠ	小　計			78	126　(35)	1.6	39　(8)	0　(0)
TypeⅡ	理学部	数学科		13	44　(23)	3.4	13　(7)	13　(7)
TypeⅡ	理学部	物理学科		14	35　(13)	2.5	11　(3)	11　(3)
TypeⅡ	理学部	化学科		11	35　(19)	3.2	11　(6)	11　(6)
TypeⅡ	理学部	生物科学科（高分子機能学専修分野）		3	9　(5)	3.0	1　－	1　－
TypeⅡ	工学部	応用理工系学科（応用物理工学コース）		15	67　(25)	4.5	15　(5)	15　(5)
TypeⅡ	工学部	機械知能工学科		5	21　(2)	4.2	5　－	5　－
TypeⅡ	工学部	環境社会工学科（環境工学コース）		5	15　(2)	3.0	0　－	0　－
TypeⅡ	小　計			66	226　(89)	3.4	56　(21)	56　(21)
計				144	352（124）	2.4	95　(29)	56　(21)

※（　）内の数字は、道内高校出身者で内数。

国際総合入試合格者の発表

国際総合入試は、「北海道大学近未来戦略150」に掲げるグローバル人材の育成のため、国や地域、学問分野を超えたボーダーレスなグローバル社会を生き抜き、リードする意欲と資質を持った人材を人物本位で選抜することを目的として平成30年度入試より導入したもので、主な対象者を国際バカロレア資格の取得者等としています。

令和6年度国際総合入試は、募集人員15名に対し、37名の出願がありました。自己推薦書、志望理由書等の出願書類による第1次選考合格者に対して、11月19日（日）に第2次選考の面接試験を実施し、12月7日（木）に合格者発表が行われ、15名が合格しました。このうち、13名は国際バカロレアの最終スコアが1月に発表のため、条件付合格となっています。

なお、条件付合格者の最終合格発表は、2月13日（火）を予定しています。

（学務部入試課）

令和6年度国際総合入試合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者数	倍率	合格者数 （条件付合格者含む）	最終合格者数
総合入試	文系	5	10 （ 8）	2.0	5（ 3） ［ 4（ 2）］	2/13に発表
	理系	10	27 （17）	2.7	10（ 7） ［ 9（ 6）］	2/13に発表
計		15	37 （25）	2.5	15（10） ［13（ 8）］	2/13に発表

※（　）内の数字は、女子で内数。
※［　］内の数字は、条件付合格者数で内数。

帰国生徒選抜合格者の発表

令和6年度帰国生徒選抜は、11学部に46名の出願がありました。出願書類による第1次選考合格者に対し、11月19日（日）に第2次選考の課題論文等と面接試験を実施し、12月7日（木）に合格発表が行われ、8名が合格しました。

（学務部入試課）

令和6年度帰国生徒選抜合格者数等一覧

学部・学科等			募集人員	志願者数	合格者数
文学部			若干名	5 （ 3）	1 －
教育学部				3 （ 1）	1 （1）
法学部				5 （ 3）	3 （2）
経済学部				4 （ 1）	0 －
理学部	数学科			－ －	－ －
	物理学科			－ －	－ －
	化学科			－ －	－ －
	生物科学科	生物学専修分野		－ －	－ －
		高分子機能学専修分野		－ －	－ －
	地球惑星科学科			－ －	－ －
医学部	医学科			6 （ 4）	0 －
	保健学科	看護学専攻		－ －	－ －
		放射線技術科学専攻		－ －	－ －
		検査技術科学専攻		1 （ 1）	1 （1）
		理学療法学専攻		－ －	－ －
		作業療法学専攻		－ －	－ －
歯学部				2 （ 2）	0 －
薬学部				1 （ 1）	0 －
工学部	応用理工系学科			－ －	－ －
	情報エレクトロニクス学科			10 （ 2）	0 －
	機械知能工学科			3 （ 0）	1 －
	環境社会工学科			1 （ 0）	0 －
農学部				3 （ 1）	1 （1）
獣医学部				1 （ 1）	0 －
水産学部				1 （ 0）	0 －
計				46 （20）	8 （5）

※（　）内の数字は、女子で内数。

故 中村睦男先生を偲ぶ会を開催

令和2年4月17日（金）にご逝去されました北海道大学元総長の中村睦男先生への哀悼の意を表し、本年11月22日（水）クラーク会館において、本学及び中村先生が理事長を務められたアイヌ民族文化財団との共催により「偲ぶ会」が開催されました。

偲ぶ会には、中村先生のご遺族のほか、本学及びアイヌ民族文化財団等の関係者、並びに中村先生とご縁のあった方々が多数参列され、中村先生の我が国における学術・高等教育の発展及びアイヌ文化の振興のみならず、地域社会等への多大なるご功績を回顧し、また、そのお人柄を偲んで思い出を語り合われ、中村先生への感謝と惜別の思いを新たにしていました。

また、偲ぶ会終了後も、中村先生に縁のある方々が、先生のご冥福をお祈りして献花に訪れられ、約200名を超える方々から献花が行われました。

（総務企画部総務課）

―式次第（敬称略）―

1. 開会の辞
2. 故人のご紹介
3. 主催者挨拶　・国立大学法人北海道大学総長　寳金清博
   ・公益財団法人アイヌ民族文化財団理事長　常本照樹
4. 黙祷
5. 故人を偲ぶ　・国立大学法人北海道大学元総長　佐伯　浩
   ・公益社団法人北海道アイヌ協会前理事長　加藤　忠
   ・国立大学法人北海道大学名誉教授　中村研一
6. 献花
7. 遺族代表挨拶
8. 閉会の辞

挨拶する寳金総長

挨拶する常本アイヌ民族文化財団理事長

献花をする参列者

令和5年度北海道大学総長奨励金留学生採用証書授与式を挙行

11月8日（水）、高等教育推進機構において、北海道大学総長奨励金留学生採用証書授与式を挙行しました。

北海道大学総長奨励金は、学業成績が極めて優秀な外国人留学生の受入れ促進を目的として平成18年度に開始された制度です。大学院での学位取得を目指し協定校等から推薦された者を選考の上、受入れを行っています。

授与式には採用者3名全員が出席しました。山口淳二理事・副学長から採用者一人ひとりに採用証書が授与され、続いて、「心豊かな学生生活を送るとともに、これから各自が進めようとしている研究計画を必ず達成し、後に続く外国人留学生の目標となってください」との祝辞が述べられました。

（学務部学生支援課）

全員での記念撮影

山口理事・副学長から証書授与

札幌商工会議所とキャリアセンターが共催で「留学生のための出張合同企業説明会in北海道大学」を開催

キャリアセンターでは、10月27日（金）に札幌商工会議所との共催により、クラーク会館において留学生のための出張合同企業説明会を開催しました。

この説明会には、情報通信、観光、建設、小売りなど、留学生の採用を考える7社の道内企業が参加し、当日はあいにくの雨だったにも関わらず、14か国、約40名の留学生が会場に訪れ、真剣に企業担当者の話を聞いていました。

また、特別ブースには北海道行政書士会の先生方が待機し、企業からの外国人採用手続きについての相談、学生からの就労ビザに関する相談等に答えていました。

参加学生からは「はじめて参加したが、親切に説明してもらった」「色々な企業があり楽しい時間を過ごせた」などの意見があり、企業からも「たくさんの学生様と直接コミュニケーションを取ることができ、大変満足いたしました」「多数の来場者があり採用を視野に考えたい人材があり、学生さんの積極的な姿勢にも感謝します」などの声をいただきました。

キャリアセンターでは、留学生が学内で直接企業に会える貴重な機会を、今後も増やしていきたいと考えております。

（学務部キャリア支援課）

受付の様子

企業の説明を聞く留学生

会場の様子

2023年度留学生のための「在留資格（ビザ）」無料相談の開催

キャリアセンターでは、11月22日（水）に北海道行政書士会と株式会社北海道アルバイト情報社との共催による留学生のための「在留資格（ビザ）」無料相談を開催しました。

この無料相談は、昨年度北海道行政書士会から企画について提案いただき、実施したところ、大変好評であったことから今年度も引き続き実施することになったものです。

当日は留学生及び教職員24名が参加し、ビザに関する様々な相談に専門知識を持つ6名の行政書士が日本語のほか英語、中国語、ロシア語で対応し、きめ細やかなアドバイスを行いました。

また、会場での対面による相談のほか、オンラインによる相談にも対応しました。

相談後に笑顔で帰る学生が多く、昨年から相談内容の変化やニーズの多さを感じたことから、今後も継続して開催したいと考えています。

（学務部キャリア支援課）

オンライン相談の様子

家族や友人と来た相談者を対応

通訳を行うスタッフ（左）と相談者

基本的なビザの変更から高度な相談までを対応

全学インターンシップ成果発表会（国内）及び経済同友会連携インターンシップ成果発表会を開催

キャリアセンターでは、10月25日（水）及び11月20日（月）に、令和5年度に実施した全学インターンシップの成果発表会を開催しました。

全学インターンシップはインターンシップ先の企業・団体等の開拓や調整、学生の選考、インターンシップ参加前や参加後の学生への研修に大学が関与する、正課の教育科目としてのインターンシップ制度です。夏季休業中に原則5日間程度以上のインターンシップを推進しており、就業体験における教育効果を高めています。

今年度は、学部1・2年生限定で経済同友会と連携した特別インターンシップ参加者16名を含む、63名の学生が全学インターンシップに参加しました。

10月25日（水）は、全参加学生を対象とした成果発表会をオンラインで実施しました。グループに分かれて、自分のインターンシップでの経験や学んだことについて討論を行った後、意見を取りまとめ発表しました。学生を受け入れた企業・団体等の関係者からは、それぞれのグループでの話し合いや全体の発表の様子を見学し、受け入れをした感想や学生へのメッセージなどをフィードバックしていただきました。

11月20日（月）は、学部1・2年生限定で実施した「経済同友会と連携したインターンシップ」参加学生による成果発表会をハイブリッド形式で実施しました。本インターンシップは学部1・2年生に限定して実施している、より教育的要素に重点をおいた就業体験プログラムです。今年度は学生16名が、1週間～4週間程度の就業体験に参加しました。

参加学生は、受入プログラム内容やインターンシップ参加前に設定した仮説と検証結果、学んだことを今後の学生生活でどのように活かしていくか等について、それぞれスライドを用いてプレゼンテーションを行いました。受入企業や経済同友会関係者、学内関係者、次年度のインターンシップに参加を検討する学生など多くの見学者が対面・オンラインから参加し、会場とオンラインをスムーズに繋いで、活発な質疑応答や対話が行われました。

次年度以降は、より専門的な大学院生のインターンシップや、学部1・2年限定の就業体験の場の強化を行う予定です。

（キャリアセンター）

開催挨拶を行う高等教育推進機構　亀野　淳教授

山口淳二理事・副学長（画面下）はオンラインから参加

プレゼンテーション形式での発表と質疑応答を行う学生

発表会会場でのインターンシップ参加学生集合写真

全学インターンシップ成果発表共有会

日　　時：2023年10月25日（水）18：30～20：30
会　　場：オンライン（Zoom）
参加対象：全学インターンシップに参加した学生　受入企業・団体等

学部1・2年生限定　経済同友会連携インターンシップ成果発表会

日　　時：2023年11月20日（月）16：40～19：40
会　　場：情報教育館スタジオ型研修室（対面）・オンライン配信（Zoom）
参加対象：全学インターンシップに参加した学生　受入企業・団体、関係団体等
ハイブリッド形式開催協力：大学院教育推進機構オープンエデュケーションセンター

日本航空株式会社と航空業界を学ぶ講座を開催

キャリアセンターでは、学生の就職活動を支援するため各種イベントを実施しています。その一環として10月30日（月）、日本航空株式会社から講師をお招きし、「JALから学ぶ航空業界のキホン」講座を開催しました。

昨年から新しく開催した講座で2年目となる今年は対面で実施し、予約枠は満席となり当日は約30名の学生が参加しました。

講座では、まず日本航空株式会社人財本部人事部採用グループの岡村拓海氏、泊　幸希氏より航空業界・日本航空での働き方について説明をいただき、続けて2グループに分かれて座談会を行いました。座談会では「日本航空で働くことを決めた理由」「やりがいを感じたこと」「一番印象に残ったこと」「キャリアアップについて」などの質問が寄せられ、対面ならではの活発な交流の場となりました。当日参加した学生からは「講師の方たちの会社に対する思いを聞くことができて興味深かった」「座談会で普段のオンライン説明会では聞けないことを聞くことができた」など現役の社員の方と直接交流ができたことに対する好意的な感想が多く寄せられました。

キャリアセンターでは今後も対面でのイベントを増やしていく予定です。また、就職活動について、学生への個別キャリア相談も実施しています。詳細はキャリアセンターのホームページで随時公開していますので、ぜひ学生の方へご案内ください。

https://cc.academic.hokudai.ac.jp/

（キャリアセンター）

日　　時：2023年10月30日（月）18：30～20：00
会　　場：高等教育推進機構　S講義棟　S3講義室、S4講義室
主　　催：キャリアセンター
参加対象：航空業界に興味のある学生（学年不問）
協力企業：日本航空株式会社

講演の様子

座談会の様子（学生からの質問に答える岡村氏）

日本学術会議と学術講演会「人間と野生生物の共生のために」を開催

11月18日（土）、日本学術会議北海道地区会議との共同主催で、学術講演会「人間と野生生物の共生のために－北海道の最新研究と実践－」を学術交流会館で開催しました。

開会に当たり、日本学術会議の三枝信子副会長と北海道地区会議の宇山智彦代表幹事（本学スラブ・ユーラシア研究センター教授）が挨拶を行いました。（三枝副会長の御挨拶はオンラインで実施）

続いて、講演を、本学獣医学研究院の坪田敏男教授、北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所自然環境部生物多様性保全グループの稲富佳洋主査、東京農業大学生物産業学部の小林万里教授、水産研究・教育機構水産資源研究所の磯野岳臣主任研究員及び本学文学研究院の池田　透教授が行いました。

続いて、本学獣医学研究院の石塚真由美教授の進行により質疑応答がなされました。

最後に、閉会に当たり、本学医学研究院の渡辺雅彦特任教授が挨拶を行いました。

本講演会は、学内外196名の方（うちオンライン参加136名）に参加いただきました。

（研究推進部研究振興企画課）

宇山代表幹事による開会挨拶

石塚教授の進行による質疑応答

渡辺特任教授による閉会挨拶

会場の様子

サブサハラ・アフリカ地域対象オンライン日本留学フェアを開催

アフリカルサカオフィスでは、本学が文部科学省から受託している「日本留学海外拠点連携推進事業（サブサハラ・アフリカ）」の一環として、サブサハラ・アフリカ地域向けにオンライン日本留学フェアを10月7日（土）（学士課程留学希望者対象）と同14日（土）（大学院留学希望者対象）に開催しました。このフェアは同事業が実施するオンライン日本留学フェアの第13、14回目にあたります。

両フェアとも日本留学に関する包括的な情報提供を本オフィスから行う全体説明会と、各プログラムのグループ相談会との二部構成で実施しました。全体説明会において学士課程向けフェアではあしなが育英会、大学院留学向けフェアでは在ザンビア日本国大使館、JICAコートジボワール事務所から、各組織が運営する奨学金についての説明もなされました。さらに、日本留学経験者からも貴重な経験談が共有され、活発な質疑応答が行われました。グループ相談会では、学士課程向けフェアに日本国内の8大学9プログラムが、大学院留学向けフェアに本学環境科学院、経済学院を含む19大学21プログラムが出展しました。

学士課程向けフェア実施の際は、ナイロビサテライト所員がケニア国内の高校へ赴き、現地の高校生とともに参加しました。高校生からは全体説明会での質疑応答への積極的な参加、グループ相談会での大学代表者との熱心なやり取りが行われ、日本留学への関心の高さを確認できるイベントとなりました。

今回のオンラインフェアでは、フェア用ウェブサイトをシンプルにするとともに、SNSやメーリングリストによる広報活動も、対象地域の在外公館や大学からの協力を得る形で積極的に行いました。その結果、対面で留学広報活動を実施したことのある地域を中心にアクセスが特に向上し、登録者数はサブサハラ・アフリカ地域全体49か国中40か国から4,206人、当日の参加者数は学士課程留学希望者向けは229人、大学院留学希望者向けには442人と非常に高い数値となりました。この事業は令和5年度で区切りを迎え、今回が最後のフェアです。これまでの試行錯誤と努力が実り、今後もサブサハラ・アフリカ地域からの留学生が増加してくれることを望んでいます。

（国際部国際連携課）

アフリカルサカオフィス奥村正裕所長からの挨拶の様子

本学工学院で学ぶマラウイからの留学生の経験談発表の様子

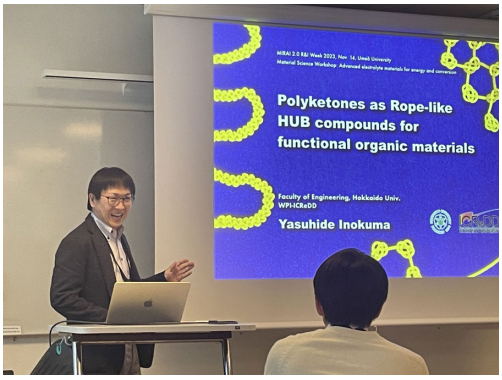
MIRAI2.0 Research & Innovation Week 2023に出席

本学が加盟する国際コンソーシアムMIRAIのメインイベントであるResearch & Innovation Week 2023が、11月13日（月）から17日（金）の5日間に渡り、スウェーデンのウメオ大学で開催され、日本とスウェーデンの加盟大学を中心に約250名が参加しました。MIRAIは、日瑞の大学間の連携強化及び学術交流の促進を目的として2017年に発足し、現在第2期目を迎えており、本学を含む日本側9大学、スウェーデン側11大学の計20校が、Ageing、Materials Science、Sustainability、AI、Innovation & Entrepreneurshipの5分野において活動しています。

イベント期間中、本学からは、加盟校の代表者が一堂に会するGeneral Assembly Meetingに髙橋　彩理事・副学長がオンライン出席した他、現地では、工学研究院教授の長谷川靖哉総長補佐がMaterials Science分野の本学代表として参加し、工学研究院の猪熊泰英教授及び触媒科学研究所の高草木達教授がMaterials Science分野、工学研究院の石井一英教授がSustainability分野のセッションにおいて口頭発表を行いました。また、本学医学院博士課程1年の兒玉拓巳氏が、ポスター発表及び同じくウメオ大学で開催されていたAI分野のPh.D.コースに参加しました。

今回を機に生まれたネットワークを元に、具体的な共同研究や連携強化に繋がっていくことが期待されます。

（国際部国際連携課）



工学研究院 猪熊教授の発表

Ph.Dコースで発表を行う医学院博士課程1年兒玉氏

令和5年度第7回目　定例記者会見を開催

11月16日（木）、本学の特色ある教育研究活動や運営状況等を社会に向けて分かりやすく発信することを目的とした「定例記者会見」を開催しました。広報・社会連携本部副本部長である黒岩麻里総長補佐の進行のもと、理学研究院准教授で大学院教育推進機構リカレント教育推進部の川本思心部長、文学研究院教授で人間知×脳×AI研究教育センターの田口　茂センター長、株式会社アラヤから金井良太代表取締役社長、並びに同社戦略企画部の藤澤逸平リーダーが発表を行いました。北海道教育庁記者クラブ加盟社等から4名の参加がありました。

発表内容は以下のとおりです。

（社会共創部広報課）

発表事項（発表者）

・北海道大学 人間知×脳×AI研究教育センターとリカレント教育推進部が、企業と協力して社会人向けの教育プログラム「AIと人間社会」を開講

（理学研究院　准教授　大学院教育推進機構リカレント教育推進部　部長　川本思心、
文学研究院　教授　人間知×脳×AI研究教育センター　センター長　田口　茂、
株式会社アラヤ　代表取締役社長　金井良太　※オンライン参加、
株式会社アラヤ　戦略企画部　リーダー　藤澤逸平）

※発表資料掲載URL
https://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/org/pr/press-conference/R5.html

定例記者会見の様子

記者からの質問を受ける発表者
（左から川本准教授、田口教授、株式会社アラヤ 藤澤リーダー）

オンラインで発表する株式会社アラヤ 金井代表取締役社長

当日の発表者と司会を務めた黒岩総長補佐
（左から黒岩総長補佐、川本准教授、田口教授、
株式会社アラヤ 藤澤リーダー）

北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）

北海道大学は、創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に北大フロンティア基金を創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、息の長い募金活動をすることとしています。

2026年、北海道大学は創基150周年を迎えます。次の150年を見据えた記念事業のため、2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

【北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）情報】

基金累計額（10月31日現在）　44,036件　6,784,987,696円

ご寄附状況

10月は1,320件61,766,941円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名を掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社アウレオ、医療法人社団薫風会青空たけうち内科クリニック、医療法人社団あさつま会あいの里整形外科、医療法人社団いぶり腎泌尿器科クリニック、江別市立病院、医療法人王子総合病院、上川中央診療所協議会、医療法人菊郷会、北見赤十字病院、株式会社木村工務店、株式会社クボタ、医療法人渓和会江別病院、KKR札幌医療センター、医療法人社団研仁会、株式会社構研エンジニアリング、社会医療法人孝仁会、医療法人社団功仁会釧路皮膚科クリニック、医療法人宏友会、医療法人社団小林皮膚科クリニック、医療法人徳洲会札幌徳洲会病院、渋江医院、士別市立病院、特定医療法人修道会本田記念病院、医療法人社団上ふじた眼科クリニック、市立旭川病院、市立千歳市民病院、市立根室病院、医療法人社団心優会野口病院、砂川市立病院、総合病院伊達赤十字病院、株式会社タナカコンサルタント、株式会社東京設計事務所、土木工学科第45期卒有志一同、株式会社中山組、株式会社日本政策投資銀行、日本赤十字社病院長連盟北海道ブロック会、公益社団法人函館市医師会函館市医師会病院、函館赤十字病院、医療法人英晃会東区役所前泌尿器科・内科、株式会社日立プラントサービス、特定医療法人朋友会、社会医療法人北晨会恵み野病院、医療法人社団北陽会牧病院、北海道厚生農業協同組合連合会、社会福祉法人北海道社会事業協会余市病院、独立行政法人労働者健康安全機構北海道中央労災病院、北海道労働保健管理協会、医療法人社団泰生会堀口クリニック、医療法人ミヤシタ、森町国民健康保険病院、八雲総合病院、やすおか皮膚科クリニック

寄附者ご芳名（個　人）

合川　正幸	青井　良平	青木　俊介	赤平　幸郎	朝倉　利光	足利　雄一	渥美　達也	阿部　雅史
有馬　太郎	飯塚　敏彦	池田　篤	池田　雄二	石井　哲夫	石井　紀夫	石井　佑	石垣　隆弘
石田　宏文	市川　健司	市坂　有基	伊藤　大貴	伊藤　広雄	伊藤　雄三	猪熊　大輔	井野　智
猪瀬　善文	猪股　路子	井原　達夫	井原　博	今井　晋	今井　信博	入澤　秀次	岩井　和浩
岩淵与志枝	上田　雅敏	上野　洋路	梅津　邦夫	梅本　由佳	海老原裕磨	縁記　和也	遠藤　公憲
大野　耕一	大橋　勉	大原　正範	大廣　洋一	小笠原篤夫	岡本　幸雄	小川　恭孝	沖崎　遼
奥芝　俊一	奥野　裕彦	小田原一史	小沼　尚則	小沼帆乃佳	小野澤敏弘	小原　大和	加賀基知三
賀古　勇輝	加藤　達哉	加藤　伸康	加藤　裕貴	金川　眞行	金澤　諭	金田　淳	鴨田　慎二
川嶋　利瑞	川瀬　寛	川初　清典	河本　充司	川原田　陽	菊田　弘輝	菊地　久子	北川　善政
城戸　幹太	衣川　暢子	木村　暢夫	木村　寔	木村　祐介	行部　洋	久下　眞一	工藤　一彦
國原　孝	久野　英和	栗城　弘幸	栗原　誠治	胡桃澤清文	黒田　重雄	黒柳　俊雄	鯉沼　潤吉
上月　浩	國分　純	児島　裕一	後藤　泰	小林　賢人	小林　清一	小林　範子	小松　寿幸

小守林　訓	近藤　健	紺谷　寛之	齊藤　晋	齋藤　昇	齋藤　久	齋藤文志郎	佐伯　宏樹
坂倉　雅夫	坂本　大介	崎元　大志	櫻木　範明	桜田　通雄	佐々木重幸	佐藤　達郎	佐藤　弘之
佐藤　森寿	佐野　将義	三升畑元基	志済　聡子	篠原　信雄	澁谷　斉	嶋岡　智子	新宮　康栄
菅原　新也	菅原　弘士	杉江　和男	杉本　聡	鈴置　真人	鈴木　貴之	鈴木　龍弘	須藤　幸雄
説田　浩	瀬名波栄潤	都木　靖彰	高島　雄太	高瀬登志彦	高田　徳容	髙橋久美子	高橋　將人
高柳　涼	武内慎太郎	武隈　洋	武久　愼	田中　伸哉	田中　享	田中　利男	田邉　起
谷　卓也	種井　善一	田原　啓司	長　靖	土家　琢磨	堤田　新	寺澤　睦	道免　寛充
徳田　直樹	冨田　幸希	豊田　威信	長尾　輝彦	仲世古善樹	新山　久美	西田　雄二	西村　成子
二宮　暢子	二瓶　和喜	庭野　陽樹	根本　叔治	野川　豊	信太　祐二	羽賀　哲朗	羽賀　直哉
橋本　正人	畠山　鎮次	畠山　大地	八田　達夫	花田　秀一	幅崎　浩樹	浜坂　幸吉	原　啓介
東山　寛	檜佐　彰一	平野　聡	福島　正之	福士　幸治	福永　悟郎	藤井　義明	藤川　恵子
藤澤　裕子	藤田　勝久	藤野　雄一	藤森　康澄	古厩　敏明	古屋　和彦	本谷　康二	本間　政幸
前野　七門	松井　彰	松井　耕二	松居　喜郎	松浦　弘司	松野　吉宏	松原　謙一	松本　修一
松本　譲	松本　嶺	真部　淳	丸山　覚	三浦　悟	三浦　巧	三木　證永	水上　尚典
南田　大朗	宮坂　和男	宮崎　松生	宮治　裕史	宮田　信幸	宮本　宏	向井　徹	武藏　学
村瀬徳啓充	村瀬　亮太	村本　文男	毛利　哲夫	森川　玲子	守屋　仁彦	八木澤　学	安田　和則
柳澤　克之	柳谷　憲治	箭原　修	矢部　一郎	山崎　裕	山崎　亮	山城　明伸	山田　和子
山本　寛之	山本　雄一	横山　敦郎	横山　考	吉田　年克	吉田　広志	吉田　学	芳村　毅
若狭　哲	若澤　美吹	和田　隆宜	渡邊　千秋	渡部　克将			

＜寄附者への特典＞

創基150周年を記念した銘板

創基150周年を記念した銘板をご用意しました。銘板は、これまでのご寄附累計金額をもとに、本学総合博物館に掲出させていただきます。個人・法人共に、ご寄附の累計が1億円以上でプレミアムゴールド、１千万円以上でゴールド、500万円以上でシルバー、100万円以上でブロンズとなります。

既存のホワイト銘板は累計20万円以上が対象です（令和2年度以前は総合博物館、令和3年度以降は百年記念会館に掲出）。

なお、銘板については、年度内に賜ったご寄附の累計を取りまとめ後、翌年8～9月頃を目途に掲出いたします。

※このほか、ご寄附の金額に応じ、オリジナルグッズや感謝状の贈呈、御礼の場など様々な特典をご用意させていただきます（詳細はこちらでご確認ください https://www.hokudai.ac.jp/fund/gratitude/ ）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員からの寄附」にアクセスしてください。
https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff

①給与口座からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。
申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ
（https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ　卒業生・基金室基金事務担当（事務局・学内電話　2017）

（社会共創部広報課）

「若手技術職員先行育成プログラム」に係る職員研修を実施

10月23日（月）～27日（金）に北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場余市果樹園及び別棟（札幌キャンパス内）において、北大コアファシリティ構想研究支援人材育成プログラム、マルチスキル人材育成プロジェクト事業の一環として、「若手技術職員先行育成プログラム」により採用された技術職員に係る職員研修（第3期）を実施しました。本研修は、先行雇用された技術職員の「マルチスキルの獲得」と、異なる職場の業務体験等を通して、幅広い視野と技術を養うことを目的としています。

余市果樹園では3日間かけて、リンゴの木の摘葉、実が色づき収穫時期を迎えたリンゴの収穫、収穫後の計量・選別・袋詰めなど、出荷前に行う様々な作業を体験しました。研修中は穏やかな秋晴れが続き、受講者は手入れの行き届いたきれいなリンゴ園の中で、気持ちよく作業を進めました。それぞれの作業前に、余市果樹園の技術職員から説明された注意点を意識しながら、摘葉では日光が実にあたり赤くなるように考えて葉を摘み、収穫では実から軸が取れないよう、慎重に作業を行いました。リンゴの木だけでも沢山あるうえに、他にも多くの種類の果樹を栽培している余市果樹園ですが、普段は少人数で作業を行っています。余市果樹園の技術職員からは、受講者の働きが助けになったと講評があり、本研修が異なる職場間での連携にも寄与したことが伺えました。休憩時間には、収穫したリンゴを試食し、受講者はおいしいリンゴを通して、余市果樹園で勤務する技術職員の技量の高さと日々の仕事の成果を感じることができました。

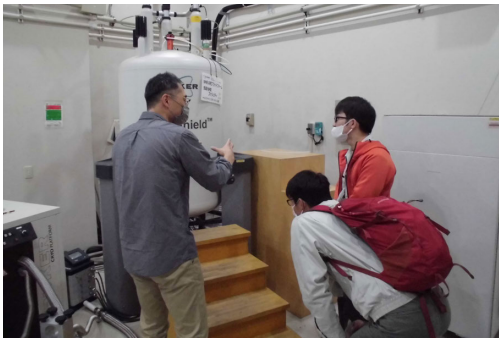
余市果樹園での研修前後の2日間は、北方生物圏フィールド科学センター別棟にて受講者の本務である研究林の仕事に関連した座学の受講と、理学研究院にて高分解能核磁気共鳴装置研究室（NMR室）を見学しました。座学では、研究林内の立木を伐採し、売り払うまでに必要となる素材生産報告や積算資料の作成、立木の品質評価を行うための収穫調査に関する講義を受講しました。理学研究院NMR室では、NMR装置の概要、分析で分かる事と、分からない事は何か、測定試料のセット方法、他機関と連携して取り組んでいる課題などの説明を受けながら、積極的に質問をして見聞を広めようとする受講者の姿が見られました。

（技術支援本部）

リンゴの収穫作業（余市果樹園）

リンゴの袋詰め作業（余市果樹園）

座学に取り組む受講者


理学研究院NMR室の見学

令和5年度第2回部局・分野横断技術交流会「電気系修理技術習得のための基礎講座」を開催

10月31日（火）に低温科学研究所において部局・分野横断技術交流会「電気系修理技術習得のための基礎講座」を開催しました。

本技術交流会は技術職員が自ら企画・運営・講義を行い、スキルの継承・伝達・強化を図り、また異分野の技術職員と技術を通して交流することで、技術職員の全学的な人材交流・技術情報交流・技術強化を図ることを目的とした北大コアファシリティ構想研究支援人材育成プログラム、マルチスキル人材育成プロジェクトの事業として行われました。

日常業務の中で電気・電子系機器の故障等が起きた時に、自分で修理に挑戦する勇気を持つことを目標に、修理する上での注意点、正しい工具の選び方と使い方、修理に必要な部品の選定などを重点的に、実習を通して学びました。

午前は、電気系修理の際に最も重要となる電気・電子機器への電源の遮断方法など、安全対策について説明を受け、自分で使用するコンセント（テーブルタップ）の製作から実習を開始し、そのために必要となる様々な圧着端子のシーン別選定方法や使用方法などを学びました。

午後からは半田ごてを用いた基板への半田付け方法を学んだ後、実際に簡単な部品を基板に半田付けし、家庭用コンセントから電源を取り、スイッチを用いてLEDを点灯させる回路の製作を行いました。

また、前もって受講者から質問を募り、実習の中でそれに答えながら進める形が取られ、質問に沿って、電気配線の絶縁方法や防水対策、またLANケーブルのコネクタへの接続方法などを講師が丁寧に説明する場面も見られました。

今回の講座は基礎的な技術のみで構成されていましたが、自分で簡単な修理を行うのに十分な内容となっており、今後の業務における積極的な活用が期待されます。

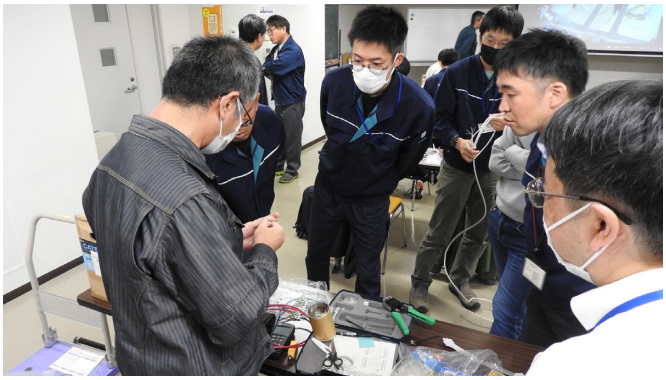
本技術交流会は13名が参加し、受講者からは「初歩的な技術の実習ではあったが、とても参考になった」、「今後、自分で修理にチャレンジしてみたい」、「ビデオカメラの映像（導線の被覆を剥くときの工具の使い方など）を見ながらの説明がとても分かりやすかった」等の感想が聞かれ、とても有意義な講座となりました。

コーディネーター：
低温科学研究所　森　章一
〃　佐藤陽亮
〃　千貝　健
〃　高塚　徹

（技術支援本部）

ビデオカメラを使った説明の様子

実習の様子


LANケーブル用コネクタ接続方法の説明の様子

令和5年度北海道大学進学相談会

10月15日（日）及び29日（日）に北海道大学進学相談会をオンラインにて開催しました。

今年度も、13学部等による個別相談に加え、グループ相談を実施したほか、学生団体「北大キャンパスビジットプロジェクト」による企画「現役北大生に質問しよう！」等、趣向を凝らし開催しました。2日間で延べ296名の参加があり、参加者からの相談に各学部等の教職員等が対応しました。

開催後の参加者からのアンケートでは、従来の対面形式での開催を望む意見もありましたが、「実際に北大の教授のお話を伺えてとても参考になりました」、「質問に対して明瞭に答えてくださったため、より多くの情報や考え方を得ることができました」、「他校の進学相談会に何度か参加したことがあるが、その中で最も為になった」、「グループ相談でも、一人ひとりの相談に細かく対応してくださり、本当に良かったです」、「教員と学生が親身に対応をしてくれ、事前に記入していた質問に対する回答も充実しており、とても良い印象を抱いた」等、受験生や保護者の方から、好意的な意見を多くいただきました。

（アドミッションセンター）

創成研究機構化学反応創成研究拠点が「第12回世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）サイエンスシンポジウム」を開催

創成研究機構化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD。以下「ICReDD」）は11月23日（木・祝）、第12回世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）サイエンスシンポジウム「インフォマティクスを活用した研究の最前線～情報を味方に付けたトップレベル研究～」を開催しました。

ICReDDは文部科学省の事業である「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）」に採択された研究拠点のうちの一つです。WPI拠点はICReDDを含め日本全国に18拠点あり、世界から第一線の研究者が多数集まってくるような、優れた研究環境と極めて高い研究水準を誇る「世界から目に見える研究拠点」の形成を目指しています。またWPIでは全国の拠点における最先端の研究成果と、サイエンスの魅力を次の世代へと伝えることを目的に、中高生を中心とした一般向けに「WPIサイエンスシンポジウム」を毎年開催しており、第12回目にあたる令和5年度はICReDDが主幹拠点となって、フロンティア応用科学研究棟を会場にハイブリッド形式で開催しました。

まず始めに、特別講演として中部大学ペプチド研究センター長である山本尚卓越教授をお招きし、「大改革が必要な我が国のイノベーション」と題して講演をいただきました。講演終了後も個別に山本教授へ質問する参加者の姿もあり、日本の研究イノベーションへの高い関心と、将来科学者を目指す若い世代の熱意が感じられました。

続く午前の部の講演では、令和4年度から高等学校で「情報Ⅰ」が共通必修科目となったことから、ICReDDにおいても主要な研究分野の一つである情報科学分野に着目し、情報分野と異分野の融合、情報技術を活用した最先端の研究について、ICReDDの瀧川一学特任教授、東京大学WPI-IRCN長井志江特任教授、そして国立研究開発法人 物質・材料研究機構（NIMS）の田村　亮チームリーダー3名がそれぞれの取り組みを紹介し、パネルディスカッションによる研究者同士の対話と参加者との質疑応答を通じて現代社会における情報科学への理解を深めました。

午後の部では、複数のWPI拠点から広報担当者が登壇し、それぞれの拠点における研究の魅力を独自の視点で紹介しました。研究成果を一般に分かりやすく伝えるため、その対象、狙い、効果によって様々に異なる表現手法を紹介し、続く座談会にて、伝える手法の多様性から浮き彫りになるサイエンスの面白さ、また、研究成果を分かりやすく伝えていくことの重要性について議論されました。

講演に加えて、会場では日本全国のWPI拠点がブースを出展し、各拠点の研究の魅力や事業の紹介、また、ヴァーチャルリアリティの体験コーナーなどで来場者との交流の場を設け、最先端の研究を身近に感じていただける機会となりました。参加者は会場117名、オンライン153名となり、シンポジウムは盛会のうちに終了しました。

ICReDDでは、毎年定例で開催している研究者向けの国際シンポジウムに加えて、今年度は広く一般の方々に向けた大規模シンポジウムの開催となりました。今後もこうした活動を通じて、異分野融合研究の促進とその社会還元の活動に取り組んでいきます。

（創成研究機構化学反応創成研究拠点）

山本卓越教授の講演

午前の部 パネルディスカッション

午後の部 座談会

ブース出展会場の様子

産学・地域協働推進機構が「まちなかロゲイニングin北海道大学」を実施～国際交流を促進する新たな取り組み～

産学・地域協働推進機構では、10月15日（日）にサステイナビリティ推進機構SDGs事業推進本部、大学院教育推進機構、並びに、HelloWorld株式会社と協働し「まちなかロゲイニングin北海道大学」を開催しました。

本イベントは、本学キャンパス内の施設を利用して開催し、高校生6名とイングリッシュスピーカー1名でチームを組み、出題されるミッションをクリアしながらスコアを競い合いました。イベントは全て英語で実施され、参加者はチームとして課題を解決する過程で、英語を通じたコミュニケーションを経験し、国際感覚を養いました。

募集時点では、定員100名を大きく上回る164名から申し込みがあり、選考の末、道内高校生92名（33校）が参加しました。イングリッシュスピーカーも北海道大学の留学生を中心に9か国21名が参加しました。

イベント後の参加者アンケートにおいて、回答者全員が英語への興味が高まったと回答したほか、97.8%が異文化への興味が高まったなどと回答しており、高校生たちの意識に変化を与えることができました。加えて、参加者からは「新たなことに挑戦するハードルが下がった」「国の違いに囚われるのはダメだと思った」「北大の広さと綺麗さに感動した」など様々な意見が寄せられました。

今回は、初めての取り組みとなりましたが、多くの協賛・後援の皆様にも支えられ、盛会の内に開催することができました。産学・地域協働推進機構では、今後も地域学生のアントレプレナーシップ涵養に貢献すべく、このようなイベントを実施していきます。

（産学・地域協働推進機構）

ロゲイニングスタート

チームで作戦を立てる様子

ミッションに取り組む様子

表彰式の様子

Social Innovation X（クロス）2023 を開催

10月19日（木）HOKKAIDO×Station01にて「Social Innovation X 2023」を開催しました。本イベントは起業を検討している方等を対象として、ビジネスの現場の最前線に立つ経営者等から「―技術とビジョン―起業家の新しいフロンティア」をテーマに、それぞれの地域におけるソーシャルビジネス分野での活動についてお話しいただきました。

株式会社クオトミーの大谷隼一代表取締役社長、Planet Savers株式会社の池上　京代表取締役CEOに登壇いただきました。起業するまでの道のりや技術への情熱、市場ニーズの特定からビジネスモデルの設計、技術革新並びに起業経験まで深い知識を共有しました。

当日は、起業を志望する学生・社会人など26名の参加があり、「投資してほしいタイミングではなく、投資に向けて万全の準備をしておくことが重要だと分かった」等の感想が寄せられ、大変有意義なイベントとなりました。

（産学・地域協働推進機構）

講演の様子

「こどもの未来のためのフォーラム」及び「第26回北海道大学－ソウル大学校ジョイントシンポジウム」を開催

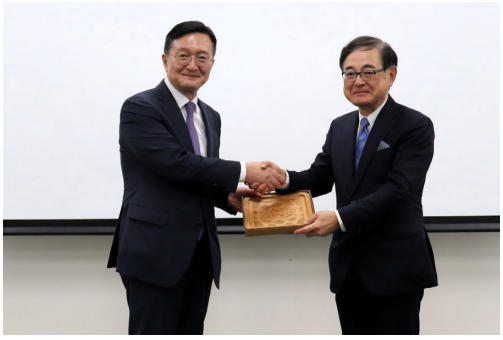
10月31日（火）から11月2日（木）にかけて、「Forum on the Future for Children: Sustainable Development for Future Generations（こどもの未来のためのフォーラム：将来世代のための持続可能な開発）」、戦略的国際連携先である韓国ソウル大学校（SNU）との「第26回北海道大学－ソウル大学校ジョイントシンポジウム（HU-SNUジョイントシンポジウム）」が開催されました。両イベントは、「将来世代のための持続可能な開発」という共通テーマを重ね合わせて設計されており、両イベントの参加者が広く同じ課題に係り話し合う場を持つことを期待し、11月1日（水）の午後のプログラムが合同開催されました。

「こどもの未来のためのフォーラム」は、本学が採択されている文部科学省と科学技術振興機構による事業「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）：こころとカラダのライフデザイン共創拠点」によるイベントであり、次世代のこどもたちが明るい未来を共創できるよう、国を越えて人々が集い対話する「こどもの未来国際会議」を、2026年に札幌に構築することを目指しています。キックオフと位置付けられた今回は、日韓台米から参加した研究者や専門家によるケーススタディ、日韓の高校生・大学生が語らうオンラインコミュニケーションと、前述シンポジウムとリンクさせたフォーラムで構成されており、本学の増田隆夫理事・副学長の挨拶で幕を開け、産学・地域協働推進機構の吉野正則特任教授の司会で進められました。ケーススタディでは北海道大学病院の馬詰　武准教授から「プレコンセプションケアの実践」、台湾国立東華大学（NDHU）のリーファン・リャン准教授、ユーシェン・ヤン氏から「台湾の若い世代の結婚・家族観」、同学チーチュア・チュアン准教授、ヨウリン・ツァイ准教授、ユンシン・ウー氏から「台湾人女子大生の恋愛観」、韓国KDI公共政策・経営大学院のジョウン・キム助教から「韓国におけるジェンダー闘争と結婚からの撤退」が発表され、議論が盛り上がりました。また、オンラインコミュニケーションでは、立命館慶祥高校、韓国仁川ハヌル高校の生徒8名、政策研究大学院大学、NDHU、本学の学生10名が集まり、米国スタンフォード大学のスティーヴン・マーフィ重松教授、本学アイヌ・先住民研究センターのニャンベ・シコポ助教、国際連携機構の植村妙菜国際URAのファシリテーションの下、将来の夢や進路、現在の不安、日韓高校事情等について話題が広がりました。

11月1日（水）午後の第一部として開催されたフォーラムは、本学の寳金清博総長、SNUのホンリム・リュウ学長、NDHUのウィリアム・D・H・リー教授、文部科学省の池田一郎産業連携・地域振興課長の挨拶で始まりました。京都精華大学全学研究機構長／前学長のウスビ・サコ教授の基調講演、サコ教授、マーフィ重松教授、本学の髙橋　彩理事・副学長と吉野特任教授によるパネルディスカッションでは、現代社会で抑圧され、好奇心を押し殺すこども達に対する大学の役目、人と人が繋がる場を持ち、知を共有することの重要性

基調講演（サコ教授）

小宮山三菱総合研究所理事長


リュウ学長と寳金総長

札幌ウポポ保存会と

が語り合われました。本フォーラムは来年以降も、国内外のステークホルダーを集めた意見交換とネットワーキングの場としていくことが、三菱総合研究所の小宮山宏理事長／東京大学元総長から確認されました。

第二部の「第26回HU-SNUジョイントシンポジウム全体会」では、髙橋理事・副学長の司会により、両イベントの参加者を前に、寶金総長の挨拶で始まりました。録画による招待講演として医学研究院の玉腰暁子教授から「日本の少子化の現状とCOI-NEXT事業」が、SNU公衆衛生大学院のヨンテ・チョウ教授から「韓国の少子化の現状と今後の展望」が紹介され、農学研究院（幸田圭一准教授）、地球環境科学研究院（早川裕弐准教授）、電子科学研究所（太田弘道教授）、情報科学研究院（吉岡真治教授）、工学研究院（大島伸行教授）、スラブ・ユーラシア研究センター（岩下明裕教授）、環境健康科学研究教育センター（山崎圭子特任講師）より、それぞれの分科会についての紹介がなされました。SNUのリュウ学長の挨拶で終わった全体会は、ジョイントシンポジウムの始まりとなりました。その後の歓迎レセプションでは、札幌ウポポ保存会によるアイヌのパフォーマンスが披露され、土屋俊亮北海道副知事、町田隆敏札幌副市長、SNUのテレサ・チョウ国際担当副学長の挨拶ではいずれもこの合同開催への想いが語られ、増田理事・副学長の挨拶で幕を閉じました。

シンポジウム終了後には、リュウ学長、チョウ国際担当副学長、スンヨン・キム国際担当副学長補佐らによる、本学植物園、スマート農業教育研究センター、ワクチン研究開発拠点の見学と、来年以降のシンポジウムに係る両校執行部の会談の場が持たれました。また、翌週には、両校の図書館職員各2名を相互派遣する職員交流が開催され、本学側で開催した2日間にはタイのカセサート大学職員1名も参加し、広く研究者・学生支援サービスについて意見交換が行われました。第27回のジョイントシンポジウムは、2024年秋にSNUで開催予定です。

（国際連携機構、産学・地域協働推進機構）

参加者一同（10月31日）

参加者一同（11月1日）

分科会1

Connecting Forest to Wood Sectors for Carbon Neutrality and Sustainability

カーボンニュートラルと持続可能性を指向した林業部門と木材利用部門との連携／農学研究院　准教授　幸田圭一

今年度は、北海道大学農学部総合研究棟を主な会場として、ソウル大学校農業生命科学大学山林資源学部、本学農学部森林科学科、北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーションの連携によるサテライトセッションを開催しました。同様の枠組み（森林関係）によるサテライトセッションの開催は、今年度で3回目を数えますが、新型コロナ禍が比較的落ち着き、本学での対面開催が可能となってからは、初めての試みとなりました。

今回のセッションでは、11月2日（木）の午前中に両大学の参加者による講演と討論を行い、昼食後、農学部森林科学科内の各研究室を簡単に紹介するラボ・ツアーを、さらにその後は苫小牧研究林に電車とバスで移動し、研究林内の野外実験施設（CO_2濃度や地温を人為的に変化させた場合の樹木、水性動物に対する影響の長期観測施設など）や資料館（大径木の伐採標本や北海道の野生動物・鳥類・昆虫の剝製標本、木炭や木材製品、開拓期の北海道の農機具といった展示物を収蔵）を見学するエクスカーションを企画しました。今回、ソウル大学校から参加された7名の中で最長老のWoo-Shin Lee（ウシン・イ）名誉教授におかれては、かつて本学で学位を取得され、長年に渡って当該分野の教育・研究における連携活動にご尽力いただいたばかりでなく、苫小牧研究林にも物心両面でご支援いただいたというご縁もありました。そのため、苫小牧研究林スタッフにも入念な事前準備と当日のご案内をいただきました。エクスカーション後の懇親会まで含め、対面によるイベント実施の醍醐味を、参加者に十分にご堪能いただけたのであれば、スタッフ一同も嬉しい限りです。

午前中の講演会では、ソウル大学校側4名、北海道大学側5名による講演がありました（対面に加えZoom併用）。今回ホスト側の窓口となった幸田准教授による本学農学部森林科学科を構成する各研究室、並びにこれまでの学生実習における連携活動（両大学の交換プログラム：新型コロナ禍による中断の後、今年度から再開）の紹介を皮切りに、日本側からは、公共・大型建造物における木質系建材の最近の利用実態、ソウル大学校の森林実習への参加体験（学部生による発表）、北北海道の森林における炭素循環に関する長期観測、森林火災防護を目指した林床落葉層の着火性に関する研究（院生発表）、といった話題が、ソウル大学校側からは、韓国の森林バイオエコノミーに関する現状と将来展望、森林伐採による攪乱が林分構造に与える将来像予測（院生発表）、ヒト居住地域に進出する森林性哺乳類のモニタリング調査（院生発表）、森林生態系がヒトの健康福祉に与えている影響と将来予測（院生発表）といった話題が、それぞれ提供され、活発な議論が行われました。

次年度以降も、ソウル大学校と本学間でこれまでに培ってきた研究・教育面での連携を継続するとともに、こうした全学レベルでのシンポジウムの機会を通した当該分野の連携活動もますます発展することを展望しています。今後ともますますのご支援とご指導を賜れば幸いです。

（農学研究院）

講演会の一コマ

苫小牧研究林でのエクスカーション（集合写真）

分科会2

Predicting landslide and flooding vulnerabilities exacerbated by extreme rainfall events

豪雨で激化するランドスライドと洪水の脆弱性予測／地球環境科学研究院　准教授　早川裕弐

北海道大学－ソウル大学校ジョイントシンポジウムの分科会として、「Predicting landslide and flooding vulnerabilities exacerbated by extreme rainfall events」をテーマに、ソウル大学校から2名、北海道大学から3名、名古屋大学から1名、レンヌ大学（フランス）から1名の研究者が集まり、気候変動下における斜面崩壊や洪水とその防災・減災、SDGs等に関わる講演を行いました。

シンポジウムの前日となる10月31日（火）、ソウル及びパリから到着した講演者達とともに、新千歳空港からレンタカーで移動し、厚真町の崩壊地を視察しました。この地域は、5年前の平成30年北海道胆振東部地震によって地すべりと斜面崩壊が多発した場所で、本学側代表者の研究室でその後の中長期的な変化について詳細に観測を継続している調査地です。当該地域は崩壊斜面の復旧が広く進んでいますが、そうした人為的な状況だけでなく、地形や生態に関わる自然環境要素に特に注目しており、現場においては流域内の地形変化や植生変化についての観察を行い、斜面崩壊が生じた流域における現状把握と将来予測について、どのようなアプローチが行えるかといった議論が行われました。また、同地域で調査されている北海道立総合研究機構の研究者や双方大学院の留学生やポスドクも含め、参加者は日本、韓国、フランス、中国、カナダといった多国籍のメンバーで構成されており、多分野にまたがる話題で意見交換し、現地だけでなく、移動の車内でも複数の言語が飛び交い、活気にあふれた現地視察となりました。

翌11月1日（水）、シンポジウム当日には、分科会の開始前に、ランチセッションとして雑談を交えながら、講演者と自由に意見交換する場を設けました。環境地理分野の大学院生2名も話題提供を行い、前日に訪れた現地視察の確認も含めて、研究や社会還元について議論しました。午後の分科会では、北海道大学、ソウル大学校、名古屋大学、レンヌ大学からの地形学、生態学に関わる7名の講演者から、それぞれ話題提供が行われ、変わりゆく気候に伴う斜面災害や洪水の現状と変化、対策等について、各地における研究成果を共有しました。特に、現地観測の細かな実状から、データ分析のテクニカルな側面、また、将来的な政策も含めた方針の提案まで、幅広い議論が展開され、予定していた時間を超過するほど白熱し、多くの知見を共有することができました。

参考→地球環境科学研究院環境地理学分野ブログ
https://kankyochiri.blogspot.com/2023/11/hu-snu-2023report.html

（地球環境科学研究院）

巨大地すべりの前での集合写真。天候も良く、限られた時間のなかでも多くの知見を得ることができた

地球環境科学研究院の会場。多くの大学院生やポスドクも参加し、多様な議論が展開された

分科会3

Next-Generation Oxide Semiconductor Materials and Devices

次世代酸化物半導体材料とデバイス / 電子科学研究所　教授　太田裕道

ソウル大学校物理学科のKookrin Char（クックリン・チャ）教授に誘われて、既に共同研究を行っている「次世代酸化物半導体材料とデバイス」に関する分科会を11月2日（木）・3日（金・祝）に開催しました。今年度の開催地は本学ということで、分科会の場所を電子科学研究所としました。ソウル大学校からはチャ教授と2名の博士課程学生が、電子科学研究所からは教員4名、研究員2名、学生9名が参加しました。分科会開催に先立ち、11月1日（水）にアスティ45で開催されたレセプション後に交流会を開催して親睦を深めました。

11月2日（木）の分科会では、午前中にチャ教授と、チャ研の博士課程の学生2名による口頭発表があり、チャ教授が2012年に透明導電性を見出した$BaSnO_3$薄膜と薄膜トランジスタ、メモリについて議論しました。昼食休憩時にはランチタイムミーティングを行い、午前中に引き続いて$BaSnO_3$薄膜トランジスタの作製方法などについて議論しました。午後は本学側から教員3名、大学院生3名がそれぞれ行っている研究について発表を行い、チャ教授とチャ研の博士課程の学生2名と次世代酸化物半導体材料やデバイスに関して議論しました。分科会の後は大学院生主体のラボツアーが開催され、短い時間ではありましたがソウル大学校の大学院生2名は大きな刺激を受けたようです。分科会の後は、さらに意見交換会を行い、本学大学院生のソウル大学校への派遣などの話題で盛り上がりました。

（電子科学研究所）

分科会参加者による集合写真（会場の電子科学研究所にて）

分科会におけるチャ教授の口頭発表

意見交換会

分科会4

2023 International Workshop on the New Frontiers in Convergence Science and Technology: Innovating Sustainable Development for Future Generations

2023年複合科学のニューフロンティアに関する国際ワークショップ：将来世代のための持続可能な開発／情報科学研究院　教授　吉岡真治

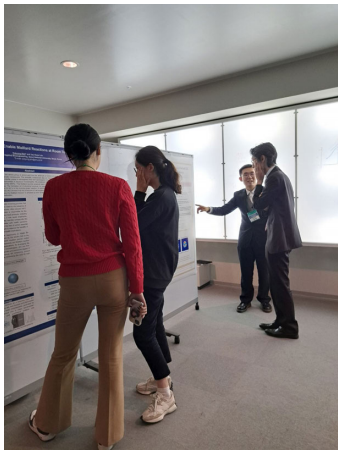
本分科会は、ソウル大学校側のカウンターパートであるGraduate School of Convergence Science and Technology（GSCST）と協力して開催しています。Convergence Scienceとは、異分野融合研究により、社会的な研究課題に取り組む研究分野であり、GSCSTと情報科学研究院・学院には、情報科学を中心とした異分野融合研究を研究対象としているという共通点があります。

本年度の分科会は、11月2日（木）に情報科学研究院棟にて、GSCSTから5名の教員と6名の学生が、本学からの参加者は、長谷山美紀情報科学研究院長を含む7名の教員と8名の学生が参加して行われました。GSCSTと情報科学研究院・学院からそれぞれ5名の教員が発表する一般セッションではAI、ナノデバイス、計算機アーキテクチャ、生体工学などの様々なテーマについての発表が行われました。学生セッションではGSCSTの学生4名と本学の学生の7名が発表を行い、学生レベルでの交流も行われました。昼食時には、GSCSTのDeanであるJung Ho Ahn（ジョンホ・アン）先生と長谷山研究院長による今後の共同研究に関する意見交換も行われました。分科会の後は、教員と学生の2つのグループで交流会を開催し、次回はソウル大学校への訪問になることを確認するとともに、今後も交流を発展的に継続していくことを確認しました。最後になりますが、ソウル大学校側のオーガナイズをしていただいたJeongmin Kim（ジョンミン・キム）先生、本学側のサポートをしていただいた情報科学研究院、並びにビッグデータとIoTに関する協同センター（CCB）の事務局に感謝の意を表したいと思います。

（情報科学研究院）

参加者による集合写真

アン先生と長谷山情報科学研究院長



学生によるポスターセッション

分科会5

Joint Symposium in the Field of Mechanical and Aerospace Engineering - Aerospace Engineering toward Next Generation -

機械及び宇宙航空工学分野における合同シンポジウム“次世代の宇宙・航空工学へむけて”／工学研究院　教授　大島伸行

本年は全体シンポジウム日程に合わせて、機械・宇宙航空工学分野における合同シンポジウムが本学のオープンイノベーションハブを会場に11月1日（水）に開催されました。本分科会では、両校が共通する主要4領域：宇宙航空、エネルギ技術、医工連携、先端材料科学に関して合同シンポジウムの継続開催と同分野での研究協力、学生交流の推進を計画しており、今年度は「宇宙航空」領域よりテーマ“次世代の宇宙・航空工学へむけて”を取り上げました。また、講演後は全体会議・懇親会に参加し、さらに交流を深めました。

講演会は本学の幅崎浩樹工学研究院長の挨拶に始まり、両校より7名の教員による講演、及び、8件の学生ポスター発表（オンライン）が行われ、オンライン参加を合わせて約20名強の参加をいただきました。併せて、翌日11月2日（木）の大樹町宇宙産業基地への見学会には学生・教員計7名が参加し、JAXA航空宇宙実験所の新設ロケット射場、インターステラテクノロジー社ロケット製造工場への訪問見学及び大樹町宇宙交流センターSORAにて室蘭工業大学と本学（共同研究教育プロジェクトを実施）による超音速試験機実験見学と研究交流などを行いました。

会期中には両校代表者によるオンライン会議にて今後の分科会運営についても検討され、次年度（2024年度）はソウル大学校にて「医工連携」領域に関する分科会開催を予定しています。

本シンポジウム分科会の開催にあたっては、ソウル大学校オーガナイザーKwanjung YEE（カンジョン・イ）教授、及び、見学会ご対応にはSPACE COTAN社の塩見航平様らに多大なご尽力をいただきましたことに改めて感謝申し上げます。

（工学研究院）

幅崎工学研究院長、ソウル大オーガナイザー イ教授（中央前列）とともに講演者、参加者ら
於 オープンイノベーションハブ会議室

分科会6

Towards Sustainable Development of Slavic-Eurasian Studies in Northeast Asia during Crisis

危機のなかの北東アジア：持続的なスラブ・ユーラシア研究の発展にむけて／スラブ・ユーラシア研究センター　教授　岩下明裕

10月31日（火）、第26回HU－SNUジョイントシンポジウムのサテライト企画として、スラブ・ユーラシア研究センターとソウル大学校ロシア東欧ユーラシア研究所による共催セミナーがスラブ・ユーラシア研究センターで開催されました。ソウル大学校のスラブ・ユーラシア研究は、長年、韓国をリードし、ハ・ヨンチョル教授（現ワシントン大学）、シン・ボンシク教授など錚々たる研究者を輩出しており、当センターとは長年にわたって研究交流が続いていました。ソ連解体後、中国や新生ロシアも含めた北東アジアにおけるスラブ・ユーラシア地域に関わる共同研究を一緒に構築してきたパートナーでもありました。

近年、コロナ禍などで交流が途絶えていましたが、この度、北海道大学・ソウル大学校のジョイントシンポジウム開催に伴い、新たなお付き合いが始まりました。今回のセミナーではジョン・ハキュング所長をはじめ、若手を含む女性を中心とした8名の研究者が来札され、センター側も中央アジア出身や外務省在籍中の若手研究者、米国籍の副センター長など多彩な顔触れで、2つのセッションを組みました（日韓それぞれ各4本の報告）。ウクライナ戦争により、ロシアとの研究交流が途絶えた現在、ともにロシアにより「非友好国」とされている日韓の研究者がどのような共同研究ができるのかを問題意識とし、現在の両国における研究状況、人文社会研究の役割、今後のロシアを始め、スラブ・ユーラシア地域の動向、これに日韓の研究者がどう関与するかなど、多岐にわたる議論が行われました。

セミナー終了後は、懇談会の開催など、次年度以降の協力構築について話が盛り上がりました。私たちの時代を超えた出会いの機会を作ってくださった、北海道大学及びソウル大学校のオルガナイザーの皆様には心よりお礼申し上げます。なお今回のセミナーの記録も刊行予定です。

（スラブ・ユーラシア研究センター）

セミナーの様子

セミナーを終えて

分科会8

2023 HU-SNU-NTNU-KU Joint Symposium for Science Education: Science Education for Sustainable Develoment in an Ageing Society with Low Birthrate

2023 HU-SNU-NTNU-KU科学教育ジョイントシンポジウム：少子高齢化社会における持続可能な開発のための科学教育／
教育学研究院　教授　大野栄三／オープンエデュケーションセンター　教授　重田勝介

本分科会は、2008年第11回北海道大学－ソウル大学校ジョイントシンポジウムにおける分科会「ソウル大学と北海道大学における教員養成・研修の比較研究」から始まり、コロナ禍による中断（2021年と2022年）はありましたが、継続して開催してきました。様々な研究領域の大学院生と教員が4大学（本学、ソウル大学校、台湾師範大学、カセサート大学）から集い、研究成果を発表し交流するための有効な場となっています。今年度のテーマは、「少子高齢化社会における持続可能な開発のための科学教育」です。少子高齢化は、日本、韓国、台湾で深刻な問題になっています。タイでは高齢化による世代間の溝が社会問題として議論されています。北海道では、少子化による学校規模の縮小が進行し、遠隔の小規模高等学校に札幌市内からオンライン授業を配信しています。本分科会の第1日目（11月16日（木））午前に、北海道教育委員会が推進している北海道高等学校遠隔授業配信センター（T-base）を訪問し、物理と化学の遠隔授業を参観しました。第1日目午後と第2日目は研究発表（口頭発表23件、ポスター発表5件）を行いました。来年度の本分科会はソウル大学校で開催する予定です。

（教育学研究院、オープンエデュケーションセンター）

口頭発表の様子

分科会終了後の風景

職員交流

令和5年度第1回北海道大学事務職員海外短期集中研修

令和5年度第1回北海道大学事務職員海外短期集中研修が11月6日（月）から11月10日（金）に行われました。この研修は戦略的国際連携先である韓国ソウル大学校（SNU）との第26回ジョイントシンポジウム職員交流事業の一環として、本学の職員がそれぞれ相手大学を訪問し実際の現場を見学しながら、各部署の業務紹介、業務上の優れた取組や課題等を共有し、意見交換を行うものです。今年度は、ソウル大学校から中央図書館で学術研究支援・研究業績分析支援サービスを担うチェ・ユンジン職員とシン・シネ職員の2名、本学から附属図書館北方資料担当の石崎　睦係員と北図書館学習支援企画担当の佐藤亜紀係長の2名が参加しました。

11月6日（月）、7日（火）はソウル大学校からの2名と、特別参加となったタイのカセサート大学図書館学務・法人渉外担当のワティーニ・ケマカロタイ課長が北海道大学を訪れ、附属図書館本館、医学部図書館、北図書館、植物園温室等を見学し、研究者向けシステマティック・レビューや英語多読マラソン、新入生向けオリエンテーション、SNSを活用した広報といった利用者支援について幅広い情報を共有し、意見交換で盛り上がりました。また、広く図書館施設と利用者の関係性を視察するため、札幌市図書・情報館を訪れました。施設見学を通じて、館内コンセプトや閲覧環境の構築に大きな示唆を受けたとの感想が参加者から寄せられました。

続く8日（水）にはソウル大学校からの参加者と共に本学からの参加者がソウル大学校へ移動し、9日（木）には冠岳キャンパス中央図書館や冠廷館、法学部図書館、朝鮮王朝期の王立図書館に系譜を持つ奎章閣を見学しました。ソウル大学校の他の職員も交えながら、貴重資料の保存環境や課題、障がいを持つ利用者向けサービス、図書館リモデリング事業における基金活動について積極的な意見交換を行いました。10日（金）に訪問した韓国国立中央図書館では、XRやデジタルブック等、最先端の技術を用いた新たなサービスを体験し、図書館におけるサービスのあり方について知見を広げることができました。

本研修は、両大学の参加者が事前に相手先の要望を聞き取った上で研修計画を立て、基本的に英語を用いながら5日間行動を共にすることにより、語学力向上を図ることはもちろん、業務に関連する多くの学びや気づきを得られる貴重な機会となりました。参加者からは、職員同士の交流継続を望む声も寄せられており、今後も活発な交流事業の展開が期待されます。

（国際連携機構、国際部国際企画課）

本学附属図書館本館

北図書館での意見交換

ソウル大学校冠岳キャンパス中央図書館

韓国国立中央図書館の「実感書斎」

第2回地球研・北大連携シンポジウムを開催

本学と総合地球環境学研究所（地球研）は、10月30日（月）に第2回地球研－北大連携シンポジウムを対面及びオンラインで開催しました。このシンポジウムは、昨年11月に本学で開催した連携協定記念シンポジウムの第2回目として開催され、研究発表セッションでは各機関からそれぞれ3件の講演が行われた後、パネルディスカッションでは、本学と地球研が協働して地域や世界の未来社会のデザインをどのように描けるかについて議論されました。

本学からは、過去20年で135名の研究者及び大学院生が地球研との共同研究に参加しており、本学から提案された3つのプロジェクトが進行中です。さらに、国内で数少ない安定同位体測定装置を用いた「同位体環境学共同研究事業」や、カーボン・ニュートラルに向けた積極的な取組を行う大学などが情報共有・発信を行う「カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」などでも連携を進めており、今後も更なる協力体制を築いていく予定です。

本シンポジウムは、アーカイブを地球研公式YouTubeチャンネルで公開しています。
https://youtu.be/20FdAY_yWes?si=682rv_g2iQ9ZiJbc

（サステイナビリティ推進機構、環境健康科学研究教育センター）

プログラム

世話人：谷口真人　総合地球環境学研究所　副所長
　　山内太郎　北海道大学環境健康科学研究教育センター センター長、保健科学研究院 教授
挨　拶：山極壽一　総合地球環境学研究所　所長
　　横田　篤　北海道大学理事・副学長、サステイナビリティ推進機構SDGs事業　推進本部長
研究発表セッション　モデレーター：山内太郎

セッション1：
「『つながり』で環境問題を解決する－アフリカと京都の例から」
大山修一　総合地球環境学研究所／京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科　教授
「企業と協働する持続的な食料生産スタイルの社会実装」
内田義崇　北海道大学大学院農学研究院　准教授

セッション2：
「サンゴとヒトの記憶：高時空間解像度の環境復元と演劇の現象学的還元」
渡邊　剛　総合地球環境学研究所　准教授／北海道大学大学院理学研究院　講師
「フィールドから持続的地域デザインについて考える」
宮下和士　北海道大学北方生物圏フィールド科学センター　教授・センター長

セッション3：
「サンゴ礁島嶼の水循環：地下水資源と地球環境」
新城竜一　総合地球環境学研究所／琉球大学理学部　教授
「インド北部の野焼きから考える大気環境・人の健康・SDGｓ」
上田佳代　北海道大学大学院医学研究院　教授

パネルディスカッション　モデレーター：谷口真人
パネリスト：大山修一、内田義崇、渡邊　剛、宮下和士、新城竜一、上田佳代
閉会挨拶：山内太郎

挨拶をする横田理事・副学長

パネルディスカッションの様子

集合写真（意見交換会）

北海道大学×STV SDGsデー2023を開催

サステイナビリティ推進機構と札幌テレビ放送（STV）は11月3日（金・祝）に北海道大学×STV SDGsデー2023を開催しました。

午前のオープニングイベントでは、総合博物館の小林快次教授が「最新恐竜研究2023」と題して講演を行いました。小林教授は、約1,500人の応募の中から抽選で選ばれた子供と保護者など約300人が聴講する中、2023年にアラスカ、モンゴル、ウズベキスタンで実施した発掘調査について報告するとともに、発掘調査中に感じた地球の気候変動として、アラスカで氷河が年々小さくなっていることや、モンゴルで湖が消滅していることなどから、人間が絶滅した恐竜のようにならないよう、地球の環境に対して一人一人ができることを考えようと伝えました。

午後には総合博物館で、恐竜、遺跡、岩石・鉱物、植物をテーマとした4つのワークショップが行われ、約120人が参加しました。参加者は普段手にすることができない本物の化石や貴重なレプリカに触れたり、札幌キャンパス内の樹木を観察したりしながら、担当教員から専門的な講義を聞きました。

また、1日を通して、総合博物館の10種類の収蔵品が描かれたカードを、謎解きをしながら探す探検カードラリーを実施し、約500人の方が参加するとともに、総合博物館内のカフェ「ぽらす」では、恐竜にちなんだ限定メニューが提供され、気候変動や持続可能性について、楽しく学び・体験するイベントになりました。

（サステイナビリティ推進機構）

日時：2023年11月3日（金・祝）9：30－17：00

・オープニングイベント（会場：学術交流会館講堂）
「最新恐竜研究2023」（総合博物館　小林快次 教授）

・ワークショップ（会場：総合博物館及び構内）
「恐竜の骨を観察しよう！」（総合博物館　小林快次 教授）
「遺跡の骨を分析しよう」（総合博物館　江田真毅 教授）
「観察して感じる岩石・鉱物の役割」（総合博物館　北野一平 助教）
「ガチ観楓会」（総合博物館　首藤光太郎 助教）

・探検カードラリー（会場：総合博物館1～3階）
制作したカード：「ヤナギタウコギ」、「オニコンブ」、「ヨトウガ」、「光竜鉱山の金鉱石」、「針入れ（アホウドリ類・上腕骨製）」、「CAMUI型ハイブリッドロケット」、「ニッポノサウルス」、「デスモスチルス」、「マチカネワニ」、「タルボサウルス」
※制作したカードは、総合博物館の小林教授、大原昌宏教授、江田教授、北野助教、首藤助教及び北方生物圏フィールド科学センターの四ツ倉典滋教授に監修いただきました。

オープニングイベントの様子

カードラリーの参加者

「ガチ観楓会」の様子

「恐竜の骨を観察しよう！」の様子

WOMAN EXPO 2023 Winterで北大ブランドを紹介

サステイナビリティ推進機構は、産学・地域協働推進機構の協力を得て、11月25日（土）に東京国際フォーラムで開催された、日本経済新聞社及び日経BP主催のWOMAN EXPO 2023 Winterにブースを出展し、本学のサステイナビリティに関連した研究成果や取組を、北大ブランドの紹介を通じて紹介しました。

当日は、北大短角牛のビーフジャーキー、北大牛乳、北大おかき（焼きとうきび味、あおさ味）、北大ラズベリーのフィナンシェなど北大認定商品のほか、北海道産ワイン用ブドウのレーズンの試食をそれぞれ100食準備し、500人以上の来場者に本学の取組を紹介しながら味わってもらうことができました。

また会場では、全ブースを巡ってスタンプを集めると抽選会に参加できるスタンプラリーが開催され、本学は当選賞品として、北大ガゴメエキスを配合した北海道美女物語タラソマスク、シマエナガミニタオルハンカチ、北大完熟りんごゼリー、北大完熟ハスカップゼリーを提供しました。

今後も、サステイナビリティ推進機構は、本学のサステイナビリティに関連した研究成果や取組を積極的に発信していく予定です。

（サステイナビリティ推進機構、
産学・地域協働推進機構）

北海道大学ブースの様子

2023年度古河講堂パープル・ライトアップを実施

本学は、内閣府の実施している「女性に対する暴力をなくす運動」に賛同し、女性の人権尊重並びにハラスメントや差別的言動に対する学内構成員の意識向上を図るため、11月22日（水）に、その運動のシンボルカラーの紫色で古河講堂をライトアップしました。

今年で3回目の実施となり、ライトアップ会場に足を運んでくださった方からは、「今年もライトアップしたんだね」というお声も聞こえました。会場は多くの学生や市民で賑わい、関連する啓発パンフレット等も多数配布されました。これを機に、皆様に暴力やデートDVについての認識をより深めていただくとともに、もし身の回りに助けを必要としている人がいれば、声をかけたりパンフレットを渡したりするアクションを起こしてもらえたらと思っています。

また、関連企画として、ハラスメント相談室との共催で、「ハラスメント講演会～大学におけるセクシュアル・ハラスメントの現状と対策」を同日に、学術交流会館で開催しました。本学ハラスメント相談室専門相談員の佐藤直弘氏より大学におけるセクシュアル・ハラスメントの実態と、被害を受けたとき・見かけたときの対応の仕方などのお話、その後、弁護士の須田布美子氏よりセクシュアル・ハラスメントの実情と、法的位置づけなどを含めたハラスメントが無くならない理由と対策についての講演を行いました。会場には本学関係者以外の参加者も多く、関心の高さが伺えました。

「女性に対する暴力をなくす運動」のリーフレットや「デートDV」に関するパンフレットは、必要に応じて部局等へのご提供も可能です。またダイバーシティ・インクルージョン推進本部のウェブサイトの中に特設ページを作成しておりますので、こちらもぜひご覧ください。

https://www.dei.hokudai.ac.jp/archives/19054/

（ダイバーシティ・インクルージョン推進本部）

紫色のライトに染まる古河講堂

北大の樹々の中の古河講堂

「国民との科学・技術対話」支援事業　アカデミックファンタジスタ 札幌南高校にて7名の研究者が講義を実施

日　　時：2023年10月20日（金）14：15－16：05
会　　場：札幌南高等学校
参加生徒：1年生 約320名

「世界を変えるAI研究の最前線」　情報科学研究院／データ駆動型融合研究創発拠点 教授　長谷山美紀

長谷山教授は、ChatGPTをはじめとする生成AIの急速な発展により、新たな職業が生まれ、社会が変わろうとしていると語ります。生成AIの事例として、文字入力で画像を生成するモデルをいくつか紹介し、コンボリューショナルニューラルネットワーク（CNN）や、Transformerなどの画像認識に用いられる深層学習の仕組みや特徴を分かりやすく解説しました。さらに、これらの技術に基づき、長谷山研究室で行われている医療、宇宙、土木、脳科学など様々な分野で役立つ最先端AI研究の数々を紹介しました。

最先端AI研究について紹介する長谷山教授

「『生きる』、『生活』を支援する看護ケアとその効果」　保健科学研究院／データ駆動型融合研究創発拠点　教授　矢野理香

看護師としての経験から、矢野教授は、看護師の健康管理のためのICT技術や、最適な仮眠環境システムの開発など、看護師の働く環境を改善するための研究をしています。また、脳卒中患者への湯に手を浸す「手浴」の効果など、経験的に効果があるとされているケア内容の有効性を科学的に実証することに挑戦しています。効果的なケアの手法を普及させることにより看護の質の格差を無くしたいと話し、誰もがより安全で質の高い心地よいケアを受けられるように支援してくことは、超高齢社会が進む現代でますます重要になると解説しました。

「手浴」の効果について解説する矢野教授

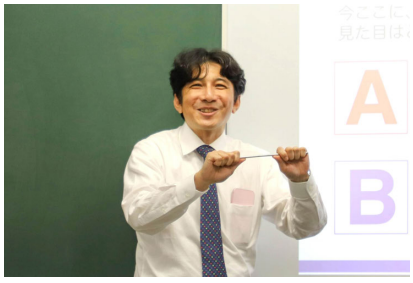
「光を使ってがんを治す」　薬学研究院／データ駆動型融合研究創発拠点　教授　小川美香子

複数あるがん治療のなかでも、がんに厳しく人にやさしい治療として、小川教授は光を使って治療を行う「光免疫療法」を紹介。もともと光でがんを見つける研究を行っていた小川教授は、その研究過程でがんの治療薬を発見しました。講義では、光を当てることでがん細胞を破壊する薬の構造を解説するとともに、創薬研究の流れとそこに伴う苦難にも触れました。また、この薬を使うことで免疫が活性化することも分かっていると説明し、転移によって散らばったがんを治せる可能性があるとの考えを伝えました。

光の透過について説明する小川教授

「材料の表面を変えて、世界を変える」　工学研究院　准教授（当時、現在教授）　菊地竜也

菊地准教授は、私たちの身の回りに溢れている「材料」は、周期表に記載された元素の組み合わせからできていて、電気化学の力を用いることで、材料表面のナノ構造を高度に制御して革新的な特性を生み出すことができると解説しました。例えば、アルミニウムの表面をナノレベルで創り変えることによって腐食しづらい材料ができることや、水をよく弾く超撥水性のアルミニウムを使うと雨水で電気エネルギーを生み出せることなど、社会の役に立つ機能を持った様々な物質を創り出すことができると紹介しました。クイズや実演を交えてのお話に加え、授業の最後には元素の実物を観察でき、生徒たちは興味津々の様子でした。


クイズや実物を交えながら材料について解説する菊地准教授

「動くがんを狙い撃つ放射線治療技術」　工学研究院　准教授　宮本直樹

がんの放射線治療技術の研究開発に携わっている宮本准教授。理工系出身でありながら、放射線に関する物理的な知識を生かして医師と共同研究をする「医学物理士」として研究をしています。講義では、放射線ががん細胞の治療に効果的である一方、がんの患部が体内で呼吸によって移動や変形をしてしまうため、正確に放射線を当てることが課題になると解説。北大が世界で初めて、放射線の一種である陽子線を使った治療システムを開発し、動くがんの患部に正確にむらなく放射線を当てる技術を確立したと話しました。

陽子線を使った治療システムについて解説する宮本准教授

「宇宙じんの作り方」　低温科学研究所　教授　木村勇気

木村教授は、宇宙での様々な実験をとおして、宇宙のナノ粒子（宇宙塵）の生成過程を明らかにし、物質進化の謎に迫る研究をしています。実際の無重力実験の映像も交えながら、宇宙の研究は宇宙でやってみないと正しい研究成果は出ないことなどを解説しました。さらに、かつて低温科学研究所の主任研究員も務め、世界初の人工雪の製作に成功した中谷宇吉郎教授の「雪は天から送られた手紙である」という言葉にならって「隕石は宇宙からの手紙」だと考えていると話した木村教授。生徒たちに研究の魅力とともに、夢を持って研究の道に進んでほしいと伝えました。

宇宙塵の生成について解説する木村教授

「がんに直接放射線を集める診断と治療」　北海道大学病院　助教　渡邊史郎

核医学は、放射線を出す物質を体の中に入れ、それを身体の機能を使ってがんに集め、診断や治療を行う学問です。渡邊助教は、画像診断を用いて疑われる病気を見出し、それを医師たちに伝えています。その役割を「医者のための医者である」と説明しました。また、診断だけではなく治療も行っています。放射線には種類があり、それを使い分けることで診断と治療の両方ができると説明。実際の症例画像を見せながら画像検査の有用性を解説した上で、がん細胞だけに放射線を当てる治療について解説しました。

核医学について解説する渡邊助教

アカデミックファンタジスタとは？

北海道大学の研究者が知の最前線を出張講義や現場体験を通して高校生などに伝える事業、「アカデミックファンタジスタ（Academic Fantasista）」。内閣府が推進する「国民との科学・技術対話」の一環として、北海道新聞社の協力のもと2012年から継続的に実施しています。今年度は北海道の高校等を対象に31名の教員が講義を実施しています。

北大の研究を発信するウェブマガジン「リサーチタイムズ」や、Facebookでも講義レポート等を随時更新中です。こちらもぜひご覧ください。

・リサーチタイムズ
https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/academic-fantasista/

・Facebook
@Hokkaido.univ.taiwa

（広報・社会連携本部）

リサーチタイムズ

フェイスブック

経済学研究院・経済学院・経済学部で令和5年度外国人留学生懇親会を開催

経済学研究院・経済学院・経済学部では、11月2日（木）に、留学生、日本人学生、教職員が相互に理解と親睦を深めることを目的として、令和5年度外国人留学生懇親会を開催しました。

本懇親会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2年間中断していましたが、昨年度のオンライン開催を経て、今年度は対面での開催が実現しました。

当日は、留学生やそのチューター・サポーター、そして国際交流に関心のある日本人学生と関係教職員など約25名が参加し、2グループに分かれてパーティーゲームを行い、大変盛況のうちに閉会しました。

（経済学研究院・経済学院・経済学部）

新入生歓迎の挨拶を述べる久保田肇経済学研究院長

懇親会の様子

経済学部が札幌国税局長の特別講演会を開催

経済学部は、札幌国税局の田島伸二局長による「税務行政の現状と国税庁の取組」と題した特別講演会を11月17日（金）に人文・社会科学総合教育研究棟で開催しました。

講演では最初に、日本の財政構造の現状と財政健全化に向けた道筋、そこでの国税庁の使命・任務についてお話しがあり、さらに、①納税環境の整備、②税務調査における重点的な取り組み事項、③税務行政の将来像という、3つの内容が取り上げられました。

まず、①納税環境の整備については、「チャットボット・タックスアンサー」や「e-Tax」、「キャッシュレス納付」といった、近年推進されているデジタル技術を活用した環境整備の状況について紹介がありました。

次に、②税務調査における重点的な取り組み事項について、「消費税不正還付への対応」や「富裕層に対する適正課税の取組」、「無申告法人・個人に対する取組」等について具体的にご説明いただいた上で、一般の税務調査とは異なる、犯罪調査に準ずる調査を行う査察調査の仕組みをお話しいただきました。

最後に、③税務行政の将来像について、デジタル技術のさらなる活用と、納税者の目線を徹底して取り入れた仕組みづくりが進められていくことが必要であると強調されました。

講演会には、経済学部生を中心に130名を超える参加があり、「普段の大学の授業ではあまり聞くことができない具体的な納税の仕組みを理解することができた」、「国税庁の方から直接お話を聞くことができる貴重な機会であった」、「デジタル技術を活用した納税の仕組みが急速に進展していることが理解できた」といった感想が寄せられました。経済学部では、学生が社会問題に関心を抱き、将来を主体的に考えてもらう良い機会になることを期待し、今後も講演会を企画していく予定です。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）

札幌国税局 田島局長

講演会の様子

保健科学研究院公開講座「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」を開催

保健科学研究院では毎年11月3日の文化の日に、「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」というテーマのもと公開講座を開催しています。本年も保健科学研究院の3名の講師陣が各々専門とする研究を分かりやすく紹介しました。講座には40名の方にご参加いただき、盛会のうちに終えることができました。

はじめに、松谷悠佑講師が「ミクロな視点で放射線を分析！」と題して、放射線が物質の中で起こす反応、私たちの体に入った場合の生体影響、ミクロな解析で解明を挑む最新の知見や今後の課題等を交えながら講演しました。

続いて、鷲見尚己教授が「安心して病院を退院する・通院するために」と題して、安心して退院後の療養生活を送るために、住み慣れた地域を中心とした包括的な支援・サービス提供体制の構築について、当事者としての考えを持ち患者と医療者が協力して意思決定や情報共有を行うプロセスの大切さなどを講演しました。

最後に、澤村大輔教授が「脳を知り、脳を守る－リハビリテーションの立場からの予防と治療のヘルスプロモーション－」と題して、認知症における脳の働きや症状、ヘルスプロモーションの中での改善、予防への意識を紹介し、会場で実際に参加者へ認知機能検査を行うなど分かりやすく講演しました。

終了後のアンケートでは、勉強になった、分かりやすかった、もっと聞きたかった等々の感想をいただき、参加者の皆様から大変好評を博することができました。

今後も、時代を反映するようなテーマや、興味を持って参加いただけるようなテーマを設けて、公開講座を開催します。

（保健科学研究院）

矢野理香保健科学研究院長によるご挨拶

松谷講師による講演の様子

鷲見教授による講演の様子

澤村教授による講演の様子

令和5年度　医理工学院修士課程研究発表会

医理工学院は、11月15日（水）に臨床講義棟において、医理工学院修士課程研究発表会を開催しました。本発表会は医理工学院の学生が日々の研究成果を発表する場であるとともに、本学院の教育活動や研究成果等を多方面に知っていただくことを目的として、例年秋頃に開催しています。

今年度の発表は昨年度と同様に、学内関係者が一堂に会し、コロナ前と同様に聴講者の目の前で発表を行いました。また、リアルタイム配信も併用したハイフレックス型で開催しました。当日は発表者15名、その他の学生・教職員26名、企業から11社（うちオンライン参加4社）の総勢70名を超える方々にご参加いただき、本学院への関心の高さが伺えました。

医理工学院の学生には、それぞれ異なる分野の指導教員が2名ずつ配置され、本学院の研究領域である医学・理学・工学、保健学、生物学などの異分野を融合した領域における研究発表を適切に行えるよう配慮した教育・指導が行われています。

参加した修士課程1年生は入学時から前向きに研究に取り組んでおり、新進気鋭の発表者が揃いました。また、本発表会は修士課程2年生が主体となり、抄録集作成・司会進行等の運営に携わっていることが、特徴の一つです。今回は修士課程2年生13名が有志で運営に携わり、研究以外の面においても研究者・技術者として研鑽を深めました。この取り組みが、学生のモチベーション向上に繋がり、今後に生かされることが期待されます。

ご参加いただいた企業の方々からも、各発表に対して大変高い評価を得るとともに、本発表会によって医理工学院における教育や研究について知見を深めることができたとのコメントをいただきました。

本発表会終了後に医学研究院医理工学グローバルセンターが開催した、企業との交流会では、学生、教員、企業代表者による活発な意見交換がなされ、盛会のうちに終了しました。

来年度以降も引き続き開催し、医理工学院の教育活動の発展に寄与する機会となるよう、さらなる充実を目指していきます。

（医理工学院・医学研究院）

久下裕司医理工学院長による挨拶

令和5年度　薬学部成績優秀賞授与式を挙行

薬学部では、11月22日（水）に薬学研究院長室において、令和5年度北海道大学薬学部成績優秀賞授与式を行いました。

この賞は「GPA制度の導入に伴い、学業が優秀な学生を顕彰し、学生の向学心を喚起する」ことを目的として、平成17年度以降に入学した学部3年次学生を対象として設けられたもので、今回で17回目の授与式となります。

今年度は、学部専門科目の成績が特に優秀な3名が受賞者に選ばれました。

授与式では、木原章雄薬学部長から表彰状と副賞が受賞者一人ひとりに授与されました。

今後この賞が本学部学生の向学心をより一層喚起するものとなることを期待しています。

（薬学研究院・薬学部）

成績優秀者と木原薬学部長（右から2人目）

表彰状を授与される成績優秀者（1人目）

表彰状を授与される成績優秀者（2人目）

表彰状を授与される成績優秀者（3人目）

工学系部局で安全衛生管理講演会を開催

工学院・工学研究院・工学部、情報科学院・情報科学研究院、量子集積エレクトロニクス研究センターでは、「工学部安全の日※」関連行事として、毎年学内外から講師を招いて、安全衛生管理に係るテーマで講演会を開催しています。

本年度は、11月7日（火）にオンライン講演形式により、関東化学株式会社札幌営業所　試薬事業本部試薬営業一部の森　太紀係長を講師に迎え、「試薬の取り扱いに関して」と題し、関東化学株式会社取り扱いの主な化学薬品（試薬）に関し、化学薬品の混合試験を交え、性質、取り扱い上の注意点について説明いただきました。

当日は、多くの学生及び教職員がオンラインで聴講し、参加者からは化学物質の危険性を示す実例を知ることができて有益であった旨の感想が寄せられる等、有意義な講演会となりました。

※工学部安全の日
平成4年8月10日に工学部で発生した重大事故を鑑み、本学部における安全管理・安全教育体制の整備と安全意識の向上に資するために、制定された日。

（工学院・工学研究院・工学部、情報科学院・情報科学研究院、量子集積エレクトロニクス研究センター）

講演する関東化学株式会社札幌営業所の森係長

函館キャンパスで防災訓練を実施

11月9日（木）に、函館キャンパスにおいて防災訓練を実施しました。

本訓練では、地震の発生及びそれに伴う二次災害を想定し、教職員で編成された自衛消防隊による避難誘導訓練を行うことで、参加者の防災意識の向上を図りました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度以来4年振りの実施となりましたが、約200名の学生・教職員が参加し、大規模な訓練となりました。

訓練終了後には、函館市消防本部より災害時の行動についての講評があり、また、綿貫　豊水産科学研究院副研究院長からは参加者へ慰労の辞と本訓練を実際の災害に活かすことの重要性が述べられました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）

自衛消防隊員へ指示をする統括管理者

訓練後に講評する函館市消防本部指導課　佐藤文哉氏

講評を熱心に聞く学生達

綿貫水産科学研究院副研究院長による挨拶

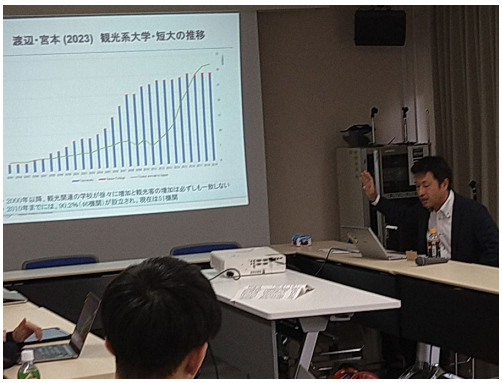
メディア・コミュニケーション研究院がシンポジウム「多層言語環境社会におけるCommunicationとMediation」を開催

クラーク会館において、11月4日（土）・5日（日）の2日間、メディア・コミュニケーション研究院主催による多層言語環境研究シンポジウムが開催されました。本研究院は、平成28年3月に国際シンポジウムを開催して以来、同年6月（香港大学と共催で香港で開催）、平成29年3月、同年6月、平成30年3月、令和元年11月、令和3年2月、令和4年3月、令和5年1月（韓国漢陽大学と共催）と、言語多様化に関するシンポジウムを継続的に開催してきました。今回のシンポジウムでは、「多層言語環境社会におけるCommunicationとMediation」と題して国内外15大学の研究者28名が発表を行いました。

交通手段や通信技術の進展に伴う人と情報の移動は、世界各地域で言語の多様化をもたらしています。ヨーロッパに起源を発する複言語主義は、「すべてのヨーロッパ人をバイリンガルに」をスローガンに、自律的な学習支援によって、持てる言語資源を利用して異なる文化集団と必要に応じた言語選択をしながら意思伝達を行うトランスランゲージング話者の育成を目指し、ヨーロッパ共通言語参照枠（CEFR）やヨーロッパ言語ポートフォリオ（ELP）を生み出しました。しかし、日本を含む東アジアでCEFRやELPを受容する際には、複言語主義的な理念は消失し、言語運用能力の評価・教育ツールの側面のみが強調される傾向があると指摘されています。

今回のシンポジウムでは、台湾の国立高雄科技大学の黄　愛玲教授による招待発表「国際交流アンケートから台日意識差異を見る―語彙共起ネットワーク分析を中心に―」を皮切りに26件の個人発表が行われました。また、明治大学廣森友人教授をコーディネーターに、パネル・ディスカッション「グループワーク×英語授業―やる気が伝染する学習活動のデザイン」が実施されました。言語多様性によって生じる諸問題の解決は、持続可能な開発目標の達成（SDGs）の根幹に関わる重要な課題です。言語文化部を前身とするメディア・コミュニケーション研究院は、そのような課題に対する問題意識を強く持って、これからも研究を推進していきます。

（メディア・コミュニケーション研究院）



観光接遇場面における英語コミュニケーション能力育成に関する発表

国際広報メディア・観光学院、メルボルン大学、ヘルシンキ大学、デュッセルドルフ大学及びヴィクトリア大学ウェリントンとの教育・研究交流「TLLPスタディ・ウィーク」を開催

国際広報メディア・観光学院では、11月14日（火）から16日（木）まで「タンデム・ランゲージ・ラーニング・プロジェクト（Tandem Language Learning Project、以下「TLLP」）・スタディ・ウィーク」を開催しました。

TLLPとは、国際広報メディア・観光学院、イギリス・シェフィールド大学、オーストラリア・メルボルン大学、フィンランド・ヘルシンキ大学の間で行われている研究教育の交流プログラムです。ドイツ・デュッセルドルフ大学、ニュージーランド・ヴィクトリア大学ウェリントンは2019年から本プログラムに参加しています。このプロジェクトの目的は、①学生・教員を含めた双方の研究交流及び研究ネットワークの構築、②研究遂行（データ収集、インタビュー、研究発表、研究討論）のために必要となるアカデミックな言語スキルの獲得にあります。具体的な教育プログラムの内容は、大学院生同士がペアを組み、互いに相手の研究のサポートをするタンデム・ラーニング、またその進展をウェブ上で支援する教員のアドバイス・システムが中心です。さらに、相互に相手の大学を訪問して研究発表や教育交流を行う「TLLPスタディ・ウィーク」を年に1回開催しています。

本年度のTLLPスタディ・ウィークは、本学で開催され、国際広報メディア観光学院から4名、海外からは4名の大学院生と2名の教員が参加しました。セッションでは、学生による研究発表、教員による講義、ワークショップなど、様々な研究・教育交流が行われました。TLLPの趣旨に基づき、国際広報メディア観光学院の学生は英語で、海外からの学生は日本語で研究発表を行いました。また、学生はセッションチェアも担当し、外国語でどのようにセッションをチェアするかを経験する機会となりました。数か月にわたり、発表要旨、パワーポイント、発表原稿などについてお互いの研究をネット上で研鑽してきた成果が、スタディ・ウィークで発揮されました。

2014年以降開催されてきたTLLPも10年目を迎えました。来年はヘルシンキ大学での開催が予定されており、ヘルシンキ大学に複数の大学からの教員と大学院生が集う予定です。今後も、国際社会を舞台に活躍する研究者を育成することを目指し、海外諸大学と、教育・研究交流を続けていきます。

（国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院）

TLLPスタディ・セッションの様子

環境科学院・地球環境科学研究院でFD研修会を開催

環境科学院・地球環境科学研究院では、11月2日（木）に「産学連携の基礎知識」と題した令和5年度FD研修会を、本研究院で、オンライン配信を併用したハイブリッド方式により開催しました。

本FD研修会は、昨今の産学連携による研究活動が活発化してきている中で、本学における共同研究や特許など、教職員が知っておいて得をする、また知っておかなければならないこれらの制度について、その知識を深めるために開催したものです。

当日は、対面及びオンライン利用合わせて32名の教職員が参加のもと、講師としてお招きした産学・地域協働推進機構産学連携推進本部の寺内伊久郎本部長からご講演をいただきました。

冒頭の谷本陽一地球環境科学研究院長からの挨拶の後、講演では、今年4月に開始した「インセンティブ制度」（共同研究及び学術コンサルティングでの「知の対価」と呼ばれる相手方からの学術貢献費等が、報奨金及び研究費として教員へ配分される制度）を含めた、本学の産学連携の種類、実績、制度、特許出願及び研究者のスタートアップ支援について、事例を織り交ぜながら分かりやすくご説明いただきました。また、講演の最後には、「共同研究、特許やスタートアップ起業に関する不明な点や困りごとなどがあれば、遠慮なく産学・地域協働推進機構まで相談してほしい」とお声掛けくださいました。

今回のFD研修会は、これから新規、更新を問わず共同研究や特許出願などを考えている教員のみならず、これに対応する事務職員にとっても大変有意義な研修会となりました。

（環境科学院・地球環境科学研究院）

講師の寺内産学連携推進本部長

人獣共通感染症国際共同研究所と創成研究機構ワクチン研究開発拠点が国際シンポジウム「第11回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議」を開催

集合写真

10月25日（水）と26日（木）に国際シンポジウム「第11回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議」を人獣共通感染症国際共同研究所において開催しました。COVID-19流行のため、海外連携大学の研究者の招へいが難しい時期が続き、対面での開催は4年ぶりとなりました。また、人獣共通感染症国際共同研究所と令和4年10月に創成研究機構に設置されたワクチン研究開発拠点が共催する初の試みであり、メルボルン大学、アイルランド国立大学ダブリン校、アブドラ国王科学技術大学、当研究所とワクチン研究開発拠点の研究進捗状況を共有し、4大学連携による共同研究を推進することを目的として本シンポジウムは開催されました。

25日（水）は、増田隆夫理事・副学長による開会挨拶、本学の喜田　宏ユニバーシティプロフェッサー（人獣共通感染症国際共同研究所 特別招聘教授）の歓迎の挨拶と人獣共通感染症国際共同研究所長の髙田礼人教授による当研究所の概要説明に続き、当研究所国際協働ユニット長であり、ワクチン研究開発拠点長の澤　洋文教授より、国際協働ユニット（GI-CoRE協力拠点）の役割と実施体制、海外連携大学と当研究所のコンソーシアム形成の意義と目的について、また、ワクチン研究開発拠点については、呼吸器感染症ワクチンの迅速な開発・生産に向けた研究計画と、メルボルン大学を含む国際研究・教育ネットワークを含む学内外の関係機関や企業との協力・連携体制について説明がありました。2日間に渡り、メルボルン大学のLorena Brown教授、Katherine Kedzierska教授、Elizabeth Hartland教授、アブドラ国王科学技術大学のArnab Pain教授、ザンビア大学のBernard Hang'ombe教授をはじめ8名の海外連携大学の研究者、及び当研究所の中島千絵教授と山岸潤也教授、ワクチン研究開発拠点の澤教授と松尾和浩特任教授をはじめ7名の本学研究者が、国際共同研究の進捗状況と今後の研究計画を発表しました。

本シンポジウムでは、インフルエンザとCOVID-19に対するワクチンと宿主反応、細菌感染症、ウイルス感染症、病原体のゲノム分析の4つのセッションで、基礎研究から社会実装が期待される研究まで、人獣共通感染症の克服に向けた様々な研究成果が発表され、活発な質疑応答と議論が交わされました。インフルエンザとCOVID-19の同時流行が懸念される中、Kedzierska教授の「インフルエンザウイルス及びSARS-CoV-2等の呼吸器ウイルス感染における危険因子」や、澤教授の「動物モデルを用いた抗SARS-CoV-2に対する薬剤の効果」、さらに新開大史准教授の「InfluenzaとCOVID-19の混合不活化全粒子ワクチンの免疫原性と予防効果」等インフルエンザとCOVID-19制圧に向けた先端的研究の発表が印象的でした。

25日（水）に開催されたレセプションには、寳金清博総長も出席してくださり、激励のご挨拶をいただきました。

2日間に渡って開催された本シンポジウムには、人獣共通感染症国際共同研究所、獣医学研究院、ワクチン研究開発拠点の研究者と大学院生、及び海外連携大学の研究者をあわせて、のべ190名が参加し、盛会のうちに終了しました。なお、国際感染症学院の大学院生には、特別授業として公開され、One Health理念に基づく基礎研究と社会実装に向けた応用研究の成果を議論する有意義な機会となりました。

（人獣共通感染症国際共同研究所、創成研究機構ワクチン研究開発拠点）

レセプションでの寳金総長のご挨拶

増田理事・副学長の開会挨拶

シンポジウムの様子

スラブ・ユーラシア研究センター公開講座「どうなる？どうする？日露関係」を開催

スラブ・ユーラシア研究センターでは、10月16日（月）から11月10日（金）までの全7回のプログラムで、公開講座「どうなる？どうする？日露関係」を開講しました。

当センターの公開講座は、スラブ・ユーラシア研究の成果を一般社会にも還元すべく、年に一回開講しているものです。従来は、地元札幌の市民の皆さんを中心に、対面での開催でしたが、コロナ禍をきっかけにZoomでのリモート視聴にシフトし、日本各地はもちろん海外からのご視聴も増えています。対面とオンラインのハイブリッドで開催された今回の公開講座では、リアルタイムで計1,200名ほどの皆様に参加いただき、そのうち圧倒的多数はオンラインでのご視聴でした。

今年度の公開講座では、日露関係という重いテーマを、あえて取り上げました。2022年2月24日にロシアがウクライナへの全面軍事侵攻を開始したことにより、世界は変わってしまいました。日本とロシアの関係も大きな影響を受け、ウクライナ戦争の前と後とで、様相が一変しています。日本は、主要先進国から成るG7の一員として、ロシアの侵略行為を非難し、経済制裁を発動しています。対するロシアの側も、日本を含む先進諸国を「非友好国」と位置付け、敵対的な姿勢を強めています。

しかし、日露関係がウクライナ戦争の前は順調だったかというと、決してそうではありません。対露関係を改善して北方領土問題を解決し、平和条約を締結しようという安倍晋三政権の試みが頓挫したことは、同政権の末期には明白でした。ウクライナでの戦火は、いつかは止むはずです。しかし、仮にその障害が無くなったとしても、日露関係の根本的な難しさは、おそらくはより増幅された形で、残ると考えざるを得ません。混沌とする世界の中で、我が国は北の隣国とどう向き合っていけばいいのでしょうか？

今回の公開講座では、このように我が国にとっての重大な課題となっている日露関係を、国際関係、外交、軍事、貿易、エネルギー、漁業、文化の各専門家が、それぞれの立場から読み解き、未来への指針を示すことを目指したものです。なお、各講義はYouTubeでのアーカイブ視聴に対応する予定ですので、お見逃しになった方も、ぜひチェックしていただければ幸いです。

（スラブ・ユーラシア研究センター）

公開講座の会場の様子

スラブ・ユーラシア研究センター公開講座ポスター

情報基盤センター創立20周年記念式典及び記念講演会を開催

情報基盤センターは、創立20周年を迎えたことを記念し、11月2日（木）百年記念会館において、学内外から多数の関係者にご列席いただき、記念式典及び記念講演会を開催しました。

記念式典では、棟朝雅晴情報基盤センター長による式辞、寳金清博総長による挨拶の後、嶋崎政一文部科学省研究振興局参事官、松岡　聡理化学研究所計算科学研究センター長からビデオメッセージによるご祝辞、また、板東茂利北海道警察サイバーセキュリティ対策本部長、合田憲人国立情報学研究所学術基盤推進部長からご祝辞をいただきました。

引き続き開催された記念講演会では、田浦健次朗東京大学情報基盤センター長による「センター群で作り上げるこれからの情報基盤」と題した招待講演、また、情報基盤センターの飯田勝吉副センター長による「QoSとセキュリティを考慮したネットワークアーキテクチャの研究開発」、情報基盤センターの深谷　猛准教授による「最先端のスパコンを活用するための線形計算技術の研究」と題した記念講演が行われました。

また、記念講演会の後は、北大マルシェCafé&Laboにおいて、祝賀会が盛大に開催されました。

なお、記念式典及び記念講演会の様子は、情報基盤センター公式YouTubeチャンネルからご覧いただけます。

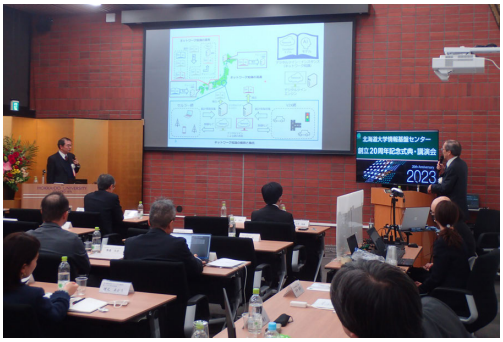
URL：https://youtube.com/playlist?list=PLcR9erO7o-5oZzALFMWhZRnwj53XaCV61

（情報基盤センター）

式辞を述べる棟朝情報基盤センター長

挨拶する寳金総長

田浦東京大学情報基盤センター長による招待講演



記念講演会の様子

ニュージーランド大使館・りんご視察団一行が余市果樹園を視察

10月27日（金）、ニュージーランド大使館からデイビッド・アレン参事官のほか、ニュージーランドのりんご研究の第一人者であるニュージーランドりんごなし協会からカレン・モリッシュCEO、ダニエル・アドセット国際関連マネージャー、プラント・アンド・フード国立研究所からジム・ウォーカー主席研究員、ベサン・ショー研究チームリーダー、リンカーン大学からヒュー・ビッグズビーアグリビジネス商学部長の5名によるりんご視察団、及び宮﨑智世大使付エグゼクティブオフィサーの計7名が北方生物圏フィールド科学センター耕地圏ステーション生物生産農場余市果樹園を視察されました。

当日は午前中に野口　伸農学研究院長と会談された後、午後から余市果樹園へ移動し、北方生物圏フィールド科学センターの星野洋一郎教授、生田稔技術専門職員、平山賢太郎技術職員から余市果樹園において栽培しているりんごの品種や栽培方法などの説明を受けました。参加者は果樹園の中を歩き回り、実際にりんごの木に触れながら星野教授らの説明を熱心な様子で聞いていました。

その後、連携協定を結んでいる余市町の農村活性化センターへ移動し、圃場を見学しました。圃場で栽培されているりんごやその台木や接ぎ木の種類などの説明を受け、栽培のノウハウについて細かく質問していました。圃場見学の後のりんご試食会では、参加者が約10種類のりんごを食べ比べ、品種の交雑組み合わせなどについて興味深そうに歓談しているのが印象的でした。

今回の視察では、北方生物圏フィールド科学センターから市川伸次技術専門員が同行して視察のサポートを行いました。道中、紅葉の山々を目にする度に歓声があがり、一同話題の尽きない賑やかな視察行程となりました。美しい北海道の自然とともに記憶に残る一日となり、これを契機に、今後のニュージーランド関係者とのさらなる連携や交流の活性化が期待されます。

（北方生物圏フィールド科学センター、農学研究院）

農学研究院での集合写真

余市果樹園での集合写真

星野教授によるりんご栽培の説明

りんご試食会の様子

「脳科学研究教育センター創立20周年記念シンポジウム」の開催

脳科学研究教育センターでは、11月21日（火）に、医学部学友会館「フラテ」において、脳科学研究教育センター創立20周年記念シンポジウムを開催しました。今回のシンポジウムでは、創立20周年を記念して、設立の経緯を知る医学研究院の本間研一名誉教授をはじめとする11名の先生方に講演をお願いしました。

医学研究院教授の田中真樹センター長による挨拶で講演が開始され、セッション1では、阿部匡樹准教授（教育学研究院）による講演「共同行為を繙く：行動から神経基盤まで」と、定藤規弘教授（立命館大学）による講演「間主観性の神経基盤：2個体同時計測fMRIによるアプローチ」が行われました。

セッション2では、田中教授（医学研究院）による講演「小脳と大脳基底核におけるリズム処理の階層性」と、伊佐　正教授（京都大学）による講演「側坐核・中脳辺縁系による運動機能回復・意思決定の制御」が行われました。

午後からの特別講演では、本間名誉教授による講演「北海道大学脳科学研究教育センターが誕生するまで」が行われました。

セッション3では、和多和宏教授（理学研究院）による講演「生得的学習バイアスによる学習個体差が生まれる神経分子基盤」と、郷　康弘教授（兵庫県立大学）による講演「ヒトを知るための霊長類オミクス研究」が行われました。

セッション4では、河原純一郎教授（文学研究院）による講演「顔の部分遮蔽を用いた選択・注意メカニズムの検討」と、渡邊克巳教授（早稲田大学）による講演「社会的相互作用の潜在的過程」が行われました。

セッション5では、渡辺雅彦教授（医学研究院）による講演「グルタミン酸シグナル伝達系によるシナプス回路発達機構：大脳と小脳の共通性」と、狩野方伸教授（帝京大学）「シナプス刈り込みと神経回路の機能発達」が行われました。

いずれの講演でも活発な質疑応答が行われ、休憩時間中も会場の至る所で議論や情報交換が行われ、最後に南　雅文教授（薬学研究院）の講評があり、盛況のうちに閉会となりました（参加者67名）。今回のシンポジウムが参加者の皆様の興味を満たすとともに、新たな研究の展開へと繋がっていくことを願っています。

（脳科学研究教育センター）

集合写真

パネル企画展示「カラフトナヨロ惣乙名文書（ヤエンコロアイヌ文書）展」を開催

附属図書館は、パネル企画展示「カラフトナヨロ惣乙名文書（ヤエンコロアイヌ文書）展」を、9月15日（金）から11月19日（日）まで、本館正面玄関ロビーにて開催しました。

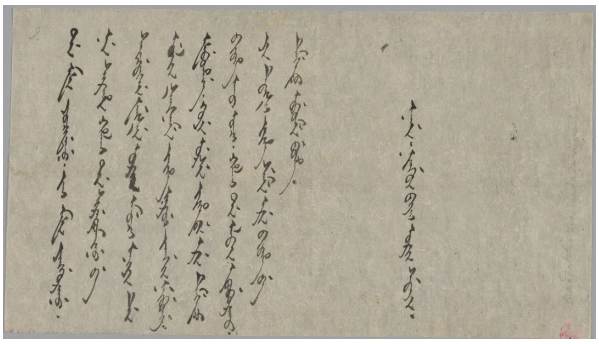
当館の所蔵する「カラフトナヨロ惣乙名文書（ヤエンコロアイヌ文書）」は、カラフト西岸ナヨロの惣乙名（複数村落の統括者）を務めたアイヌの氏族長の家に保管、伝来した文書群で、清朝関係文書4通と日本側作成文書9通の計13通で構成されています。18世紀から19世紀にかけてのカラフトアイヌと中国、日本との関わりを伝える極めて稀有な史料で令和元年7月23日付けで国の重要文化財に指定されました。

これを記念して令和2年度にパネル企画展示を行いましたが、コロナ禍の拡大により残念ながら閉館となり来館者にご覧いただく機会を逸したため、ホームカミングデーに合わせ、改めて展示を行いました。

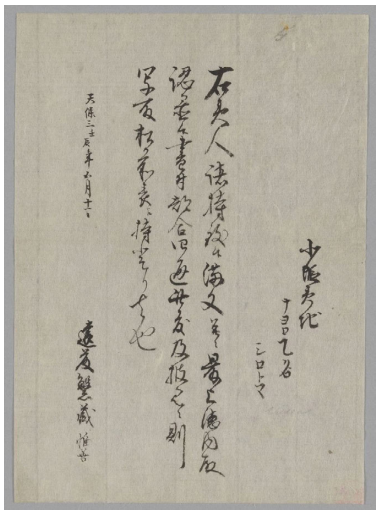
この文書群は、重要文化財指定時は2巻の巻物に貼付されていましたが、損傷が進んでいたため、令和3年度に文化庁の助言のもと東京の工房へ修復を依頼し、カラフトで保管されていた時と同様の13通の文書へ戻しています。

なお、この「カラフトナヨロ惣乙名文書（ヤエンコロアイヌ文書）」は北方資料データベース（https://www2.lib.hokudai.ac.jp/hoppodb/）で超高精細画像を公開しています。

（附属図書館）



カラフトナヨロ惣乙名文書（ヤエンコロアイヌ文書）満文



カラフトナヨロ惣乙名文書
（ヤエンコロアイヌ文書）和文

展示の様子

北海道大学病院創立100周年記念式典・記念講演会・記念祝賀会を挙行

11月4日（土）に札幌グランドホテルにおいて、北海道大学病院創立100周年記念式典・記念講演会・記念祝賀会を挙行しました。

1. 記念式典

記念式典では、現職の教職員やOB、関連病院等の方々、ご来賓の皆さまが一堂に会しました。初めに主催者を代表して渥美達也病院長が式辞において、ご来賓をはじめ関係者に向けて感謝の意を表し、「1921年の開院時、そこにいた教員や学生が想い描いた未来の医療、その開発のために培った尊い『野心の訓（おし）へ』、それを次の100年も引き継いで北大病院を発展させていく所存です」と述べられました。

続いて、寳金清博総長、畠山鎮次医学部長、網塚憲生歯学部長の挨拶の後、俵　幸嗣文部科学省高等教育局医学教育課長、鈴木直道北海道知事、秋元克広札幌市長、山下敏彦札幌医科大学学長から祝辞が述べられました。

2. 記念講演会

記念講演会では、国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授・山王メディカルセンター脳血管センター長・北海道大学医学部第50期生である内山真一郎氏から「急性脳血管症候群（ACVS）と塞栓源不明の脳塞栓症（ESUS）」と題し、これまでの自身が体験してきた、海外での研究活動や長嶋茂雄読売ジャイアンツ終身名誉監督の主治医としてのご経験について講演が行われ、引き続き、南極料理人・著作家の西村　淳氏から「南極のドクター達」と題し、南極地域観測隊として南極で過ごされたエピソードや南極の医療事情について講演が行われました。

3. 記念祝賀会

記念祝賀会では、渥美病院長による主催者挨拶のあと、藤原秀俊北海道医師会副会長から祝辞が述べられました。続いて、寳金総長、畠山医学部長、網塚歯学部長、藤原北海道医師会副会長、渥美病院長、本間明宏副病院長、南須原康行副病院長、岡林靖子副病院長が法被姿となり鏡開きが行われ、石田晋北海道大学病院創立100周年記念事業ワーキング委員長による祝杯のご発声により祝賀会が開宴しました。参加された皆様が終始笑顔で和やかにご歓談されるなか、本院の100年のあゆみを振り返るビデオ映像も上映されました。最後に締めくくりとして、佐藤嘉晃副病院長のご発声で乾杯が行われ、記念祝賀会は盛況のうちに終了しました。

北海道大学病院は100年に渡り継承してきた信頼と尊敬を礎として、新たな100年を切り拓いていきます。

（北海道大学病院）

記念式典の様子

記念式典で式辞を述べる渥美病院長

記念講演会の様子（内山氏）

記念講演会の様子（西村氏）

表敬訪問

海外

年月日	来　訪　者	来 訪 目 的
5.11.2	ソウル大学校（大韓民国）　Honglim Ryu 学長	第26回北海道大学－ソウル大学校 ジョイントシンポジウム
5.11.2	James Newhall Smith 氏（札幌農学校四代教頭ウィリアム・ペン・ブルックス博士御子孫）	ブルックス博士に関する情報収集
5.11.3	コロラド州立大学（アメリカ合衆国）　Sue VandeWoude 獣医学・生物医科学部長	今後の交流に関する懇談
5.11.14	カナダ日本国会議員連盟（カナダ）　Stan Kutcher 共同議長	今後の交流に関する懇談
5.11.14	アデレード大学（オーストラリア連邦）　Anton Middelberg 副学長	今後の交流に関する懇談

Honglim Ryu ソウル大学校学長（右から5人目）

James Newhall Smith 氏（右から3人目）

Stan Kutcher カナダ日本国会議員連盟共同議長（中央）

Anton Middelberg アデレード大学副学長（中央）

（国際部国際連携課）

訃報

名誉教授　栗原（くりはら）　堅三（けんぞう）　氏

（享年88歳）

名誉教授　栗原堅三先生　が令和5年10月26日にご逝去されました。

栗原先生は、昭和11年に生まれ、昭和33年東京工業大学理学部化学科を卒業、同38年同大学大学院理工学研究科博士課程を修了し、理学博士の学位を取得されました。同年に同大学理学部化学科（生物化学講座）の助手に採用され、同47年9月に北海道大学薬学部助教授（薬品物理化学講座）に転任し、同54年11月同教授（薬剤学講座）に昇任されました。

平成10年4月より、大学院重点化に伴い、大学院薬学研究科医療薬学専攻医療薬学講座担当となりました。この間、昭和41年6月から42年8月まで、シカゴ大学生理学教室の客員研究員、同42年8月から43年12月までフロリダ州立大学生物物理学教室客員研究員として、在外研究を行いました。

平成11年に停年を迎えた後、同年4月に本学名誉教授になられました。

同年4月に青森大学に移られ、同大学環境科学研究科教授になられた後、同14年4月から21年3月まで、同大学学長を務められました。

本学においては、薬学部薬剤学講座を担当し薬学部学生の教育を行い、大学院薬学研究科の担当として大学院学生の教育と研究指導を行いました。この間、平成3年4月から同4年3月まで機器分析センター長、同5年7月から9年6月まで薬学部長、同3年6月から10年3月まで評議員を務めるほか、大学院委員会委員、学生部委員会委員、入学者選抜制度調査委員会委員、点検評価委員会委員、広報委員会委員などを務め、大学運営の枢機に参画するとともに、学部等の運営に貢献されました。

同人は、長年味覚器及び嗅覚器の分子機構に関する研究を主に行ってきました。例えば、味覚器における分子機構及び情報変換機構に関し、数多くの先進的な研究を行い、食品の味の分子機構やうま味の分子機構に関する研究を行いました。同人はうま味が第5番目の基本味であることを提唱し、これを国際的に認知させるとともに薬物の苦味を選択的に抑制する物質を発見しました。この苦味抑制剤は、各種の薬物やある種の食品の苦味の抑制剤として実用化されています。

その他にも同人は神経の分化機構、特に交感神経がレチノイン酸や骨形成因子により分化することを発見し、その機構を明らかにしました。

これらの研究成果に関しては国際的に高い評価を受け、わが国のみならず、外国において多くの招待講演を行ってきました。平成9年9月には秋山財団賞を受賞し、平成11年3月には日本薬学会賞を受賞しました。

一方、学外においては、学術審議会専門委員、日本学術会議研究連絡委員、薬学教育の改善に関する調査協力者会議委員（文部省）並びに国立大学及び私立大学における非常勤講師を務め、わが国の教育及び科学技術の発展に寄与しました。

青森大学に移ってから、7年の永きにわたり学長を務められ、同大学の運営に多大なご尽力を尽くされました。

同人は学会活動にも力を注ぎ、日本薬学会北海道支部幹事、日本味と匂学会長、Chemical Senses（Oxford University Press）編集長を務め、学会の発展に尽力しました。

ここに謹んで栗原先生の学術研究発展と人材育成への貢献に感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（薬学研究院・薬学部）

名誉教授　梅田（うめだ）　安治（やすはる）　氏

（享年92歳）

名誉教授　梅田安治先生　が、令和5年11月6日に逝去されました。

先生は、昭和7年5月8日に北海道に生まれ、昭和30年3月に北海道大学農学部農業物理学科を卒業後、同年7月に北海道大学農学部助手に採用され、昭和38年6月に助教授、昭和61年4月に教授に昇任し土地改良学講座を担任され、平成5年4月から平成6年11月まで土質改善学講座も兼担されました。平成3年8月から平成7年8月まで北海道大学評議員を務め、平成8年3月に停年により退職、北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

先生は、一貫して農業土木学、土地改良学に関する広汎な研究と教育活動に携わり、農業農村環境の利用と管理、保全にかかわる土地利用計画学的研究へと発展させられました。とりわけ、泥炭と泥炭地の理工学的研究並びに泥炭地の水文環境に関する研究を進め、泥炭地の開発利用から湿原的保全利用に及ぶ課題に対し具体的な手法を提示されました。農地の灌漑排水に関しても、寒冷地水田の水管理手法を示し、また暗渠排水や畑地灌漑、肥培灌漑等について先導的研究を進められました。さらに、農村景観の評価に関して先駆的な研究を展開し、それが農業土木学の一分野たることを明確にされるなど、農業的土地利用と地域生態系の保全に関する研究、積雪寒冷地域の農業基盤の整備と保全に関する研究などを意欲的に推進されました。これらの研究に対し、平成9年7月に農業土木学会学術賞、平成13年4月に日本農学賞並びに読売農学賞、平成17年9月に国際水田水環境工学会国際賞を受賞されました。また、退職後も農村空間研究所を主宰され、北海道の農業農村の振興と発展に長く尽力されました。

先生の長年にわたるご功績に敬意を表し、多大なご貢献に感謝申し上げ、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（農学院・農学研究院・農学部）

資料

令和５年度外国人留学生数

【部局別】

学部等

令和5年11月1日現在

部局名	国費留学生		外国政府派遣留学生		私費留学生		合計
	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	
文学部	3（1）	2（2）			2（2）	52（38）	59（43）
教育学部	1	1				15（11）	17（11）
法学部					1	3（2）	4（2）
経済学部		4（2）			1	23（17）	28（19）
理学部	11（4）				29（10）	2（1）	42（15）
医学部					1（1）		1（1）
薬学部					1（1）		1（1）
工学部	13（1）				18（3）	17（4）	48（8）
農学部						3（3）	3（3）
獣医学部					1（1）		1（1）
水産学部					7（3）	8（2）	15（5）
現代日本学プログラム課程	4（3）				45（29）		49（32）
総合教育部	13（3）				19（9）		32（12）
合計	45（12）	7（4）			125（59）	123（78）	300（153）

大学院等

部局名	国費留学生				外国政府派遣留学生				私費留学生				合計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	
法学研究科	1（1）		3（1）						24（14）		12（3）	18（9）	58（28）
水産科学院	2		5（3）				1	8（3）	26（7）		15（3）	7（5）	64（21）
水産科学研究院												1	1
環境科学院	17（10）		24（11）				1	2（2）	57（21）		74（30）	1（1）	176（75）
地球環境科学研究院												14（7）	14（7）
理学院	6（2）		5（2）				1		28（10）		28（10）	1	69（24）
理学研究院												7（1）	7（1）
農学院	12（8）		23（12）						21（12）		33（18）	1（1）	90（51）
農学研究院				3（2）								6（2）	9（4）
生命科学院	9（2）		32（17）				2		28（10）		55（24）	2（1）	128（54）
教育学院	1（1）								32（27）		17（13）	2（1）	52（42）
教育学研究院												2（2）	2（2）
国際広報メディア・観光学院			3（1）						89（69）		38（27）	4（2）	134（99）
メディア・コミュニケーション研究院				1（1）								19（15）	20（16）
保健科学院	1（1）		2（2）						9（3）		11（3）		23（9）
保健科学研究院												9（5）	9（5）
工学院	29（9）		28（4）				2		65（13）		85（18）	10（1）	219（45）
工学研究院				6（2）								27（8）	33（10）
総合化学院	1		4（2）				3（1）		22（9）		42（15）	4（1）	76（28）
経済学院	5（1）								51（30）	1	21（9）	1（1）	79（41）
経済学研究院												4（3）	4（3）
医学院	1（1）		2（1）				1		12（11）		49（25）	2（1）	67（39）
医学研究院				1								8（5）	9（5）
歯学院											27（15）		27（15）
歯学研究院												2（2）	2（2）
獣医学院			8（1）								14（6）		22（7）
獣医学研究院				1（1）									1（1）
文学院	3（2）		8（4）						83（54）		60（37）	12（8）	166（105）
文学研究院				3（3）								1	4（3）
文学研究科											6（4）		6（4）
情報科学院	3		3（1）						36（7）		35（11）	3（1）	80（20）
情報科学研究院				1								11（1）	12（1）
情報科学研究科											3（1）		3（1）
医理工学院			2						2（1）		4（1）		8（2）
国際感染症学院			14（8）								15（7）	3（2）	32（17）
国際食資源学院	1（1）		4（3）				1（1）		6（4）		14（5）		26（14）
公共政策学教育部										16（9）		2	18（9）
公共政策学連携研究部				1								2（2）	3（2）
電子科学研究所												2（1）	2（1）
遺伝子病制御研究所												3（1）	3（1）
触媒科学研究所												4（2）	4（2）
人獣共通感染症国際共同研究所												1	1
スラブ・ユーラシア研究センター				1（1）								1	2（1）
情報基盤センター												3（2）	3（2）
量子集積エレクトロニクス研究センター												3（1）	3（1）
北方生物圏フィールド科学センター												3	3
アイヌ・先住民研究センター												1（1）	1（1）
北極域研究センター												3	3
総合博物館												2（2）	2（2）
高等教育推進機構												39（23）	39（23）
合計	92（39）	0	170（73）	18（10）	0	0	12（2）	10（5）	591（302）	17（9）	658（285）	251（121）	1,819（846）

日本語研修生等

高等教育推進機構	日本語・日本文化研修生		日本語研修生		合計
	国費	私費	国費	私費	
	18（12）	16（12）	7（4）	13（5）	54（33）

外国人留学生総数（「留学」以外の在留資格の者を含む）

学部留学生	大学院留学生			研究生等	日本語研修生 日本語・日本文化研修生	留学生総数	外国人学生 （「留学」以外）	留学生及び外国人学生 総計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程					
170（71）	683（341）	17（9）	840（360）	409（218）	54（33）	2,173（1,032）	48（29）	2,221（1,061）

＊（　　）内は女子を内数で示す
＊修士課程には博士前期課程を、博士課程には博士後期課程を含む
＊研究生等には特別研究学生及び特別聴講学生を含む

（学務部国際交流課）

令和5年度国別外国人留学生数

令和5年11月1日現在

地域	国名（地域名）	国費留学生 学部 学士	国費留学生 学部 研究生	国費留学生 日本語・日本文化研修生	国費留学生 日本語研修生	国費留学生 大学院 修士	国費留学生 大学院 専門職学位	国費留学生 大学院 博士	国費留学生 大学院 研究生	国費留学生 小計	外国政府派遣留学生 学部 学士	外国政府派遣留学生 大学院 修士	外国政府派遣留学生 大学院 専門職学位	外国政府派遣留学生 大学院 博士	外国政府派遣留学生 大学院 特別研究学生	外国政府派遣留学生 小計	私費留学生 学部 学士	私費留学生 学部 研究生	私費留学生 学部 特別聴講学生	私費留学生 日本語・日本文化研修生	私費留学生 日本語研修生	私費留学生 大学院 修士	私費留学生 大学院 専門職学位	私費留学生 大学院 博士	私費留学生 大学院 研究生	私費留学生 大学院 特別研究学生	私費留学生 大学院 特別聴講学生	私費留学生 小計	合計
アジア	インド	2(1)		1(1)	3(2)	14(3)		11(6)		31(13)							2(1)					4(2)		22(11)	1(1)			29(15)	60(28)
	インドネシア	1(1)			1	8(5)		14(10)		24(16)							7(4)					6(3)		16(8)		2(1)	1(1)	32(17)	56(33)
	カンボジア	2	1(1)					2		5(1)												2		2	1			5	10(1)
	シンガポール																				1(1)	1		3				5(1)	5(1)
	スリランカ			1(1)		2(1)		2		5(2)												1		3(2)			1(1)	5(3)	10(5)
	タイ	6(3)		1		4(3)		12(7)		23(13)							8(4)	1(1)			1(1)	4(2)		15(9)	1(1)	2(1)		32(19)	55(32)
	台湾																4(3)		12(8)	1(1)		20(12)		18(10)	5(3)	2(2)	16(8)	78(47)	78(47)
	大韓民国	13(1)				4(1)		3(2)		20(4)							13(2)		26(11)		1	24(5)		21(7)	1		2	91(25)	111(29)
	中華人民共和国			1(1)		6(3)		29(13)	5(3)	41(20)				12(2)	10(5)	22(7)	40(17)	49(37)	29(20)	9(6)		495(267)	16(8)	442(194)	127(61)	23(14)	13(7)	1,243(631)	1,306(658)
	ネパール							5(2)		5(2)														1				1	6(2)
	パキスタン		1			3(1)		4(3)		8(4)												2(1)		2				4(1)	12(5)
	バングラデシュ					4(2)		21(5)	1(1)	26(8)														15(7)	1	1(1)		17(8)	43(16)
	フィリピン	2(1)				4(3)		7	2(1)	15(5)							6(2)				1(1)	3(1)		6(1)				16(5)	31(10)
	ブータン					1				1																			1
	ブルネイ							2		2														1(1)				1(1)	3(1)
	ベトナム					5(1)		5(3)		10(4)							3(1)	1(1)			1			7(4)				12(6)	22(10)
	マレーシア	2(1)				3(1)		4(3)		9(5)												1		6(3)				7(3)	16(8)
	ミャンマー	1(1)		1(1)		1(1)		3(2)		6(5)												1(1)		5(2)				6(3)	12(8)
	モンゴル			1(1)		1		1(1)		3(2)							1(1)					1(1)		6(3)				8(5)	11(7)
	ラオス																							1				1	1
	小計(19カ国1地域)	29(9)	2(1)	6(5)	4(2)	60(25)		125(57)	8(5)	234(104)				12(2)	10(5)	22(7)	84(35)	51(39)	70(39)	10(7)	5(3)	565(295)	16(8)	592(262)	137(66)	30(19)	33(17)	1,583(790)	1,849(901)
中東	イラン							1		1																			1
	クウェート																							1				1	1
	サウジアラビア																							3				3	3
	シリア					2(2)				2(2)																			2(2)
	トルコ			1				1(1)		2(1)												1		2(1)				3(1)	5(2)
	ヨルダン		1(1)			1(1)				2(2)																			2(2)
	レバノン								1	1																			1
	小計(7カ国)		1(1)	1		3(3)		2(1)	1	8(5)												1		6(1)				7(1)	15(6)
アフリカ	アンゴラ							1		1																			1
	ウガンダ					1				1														1				1	2
	エジプト				1(1)	1(1)		1(1)		3(3)												2(1)		2(1)	1			5(2)	8(5)
	エチオピア							2		2												1		4	1			6	8
	ガーナ							4(1)		4(1)												1		2	1			4	8(1)
	カーボヴェルデ							1		1																			1
	カメルーン								1	1																			1
	ケニア							1(1)		1(1)							1					2			1			4	5(1)
	コンゴ民主共和国							1		1														3				3	4
	ザンビア							4(2)	2(2)	6(4)												1		7(2)	1(1)			9(3)	15(7)
	ジンバブエ																							2	1(1)			3(1)	3(1)
	スーダン					1				1																			1
	タンザニア																							2(1)	1			3(1)	3(1)
	ナイジェリア					4		2		6												2		8(3)				10(3)	16(3)
	ナミビア				1(1)					1(1)																			1(1)
	ブルキナファソ																								1			1	1
	ベナン					1				1														1(1)				1(1)	2(1)
	ボツワナ																					1						1	1
	マダガスカル								1	1												1(1)						1(1)	2(1)
	マラウイ							2(1)		2(1)												2						2	4(1)
	マリ				1	1				2																			2
	南アフリカ							1		1																			1
	南スーダン					1		1		2																			2
	モザンビーク					1(1)				1(1)												1(1)			2(1)			3(2)	4(3)
	モロッコ																1							1(1)				2(1)	2(1)
	リベリア					1				1																			1
	ルワンダ																							1	2(1)			3(1)	3(1)
	小計(27カ国)				3(2)	12(2)		21(6)	4(2)	40(12)							2					14(3)		34(9)	12(4)			62(16)	102(28)
大洋州	オーストラリア							1(1)		1(1)							2(1)				1						3(2)	6(3)	7(4)
	ニュージーランド							1		1																			1
	小計(2カ国)							2(1)		2(1)							2(1)				1						3(2)	6(3)	8(4)
北米	アメリカ合衆国	3(1)		1		1(1)		2		7(2)							13(7)			1(1)	3(1)	1		4(1)		1	1(1)	24(11)	31(13)
	カナダ	1				1				2							2(1)			1(1)		3(1)		2			2(1)	10(4)	12(4)
	小計(2カ国)	4(1)		1		2(1)		2		9(2)							15(8)			2(2)	3(1)	4(1)		6(1)		1	3(2)	34(15)	43(17)
中南米	アルゼンチン							1(1)		1(1)															1(1)			1(1)	2(2)
	エクアドル					2(1)				2(1)																			2(1)
	エルサルバドル					1				1														1(1)				1(1)	2(1)
	グアテマラ	1				1		2		4														1(1)				1(1)	5(1)
	コスタリカ																1(1)											1(1)	1(1)
	コロンビア		1(1)			1(1)		2(2)		4(4)														1(1)				1(1)	5(5)
	ジャマイカ							1		1																			1
	トリニダード・トバゴ																				1							1	1
	ニカラグア							1		1																			1
	ハイチ							1		1																			1
	ブラジル	3(1)		2(1)		1(1)		1		7(3)							1(1)					1			1(1)			3(2)	10(5)
	ペルー	1				1			1	3														1				1	4
	ボリビア					1(1)				1(1)																			1(1)
	ホンジュラス							1		1																			1
	メキシコ							1		1							1(1)		1									2(1)	3(1)
	小計(15カ国)	5(1)	1(1)	2(1)		8(4)		11(3)	1	28(10)							3(3)		1		1	1		4(3)	2(2)			12(8)	40(18)
ヨーロッパ	アゼルバイジャン								1	1																			1
	アルメニア								1(1)	1(1)																			1(1)
	英国(イギリス)	1								1							5(3)				1(1)						3(1)	9(5)	10(5)
	イタリア	1(1)								1(1)										2(1)			1(1)				2(1)	5(3)	6(4)
	ウクライナ							2(1)		2(1)														1(1)	1			2(1)	4(2)
	ウズベキスタン					1				1														3				3	4
	オランダ																										1	1	1
	カザフスタン		1	1(1)						2(1)							1										1(1)	2(1)	4(2)
	北マケドニア					1				1																			1
	キルギス			1(1)						1(1)												1(1)						1(1)	2(2)
	スイス																							1(1)			1(1)	2(2)	2(2)
	スウェーデン	2								2												2(1)					1(1)	3(2)	5(2)
	スペイン																1				1			1(1)				3(1)	3(1)
	スロベニア																					1						1	1
	セルビア					1(1)				1(1)																			1(1)
	タジキスタン																	1										1	1
	チェコ								1(1)	1(1)							1(1)											1(1)	2(2)
	ドイツ																5(3)									3	8(1)	16(4)	16(4)
	トルクメニスタン			1						1																			1
	ハンガリー																							1				1	1
	フィンランド																2(2)							4(2)	1		2	9(4)	9(4)
	フランス			1(1)						1(1)							1(1)							2(2)			1	4(3)	5(4)
	ブルガリア	1								1																	2(1)	2(1)	3(1)
	ポーランド	1		1(1)				1(1)		3(2)							1(1)			1(1)								2(2)	5(4)
	リトアニア		1	1(1)						2(1)																			2(1)
	ルーマニア					1(1)				1(1)																			1(1)
	ロシア	1	1(1)	2(1)		3(2)		4(3)	1(1)	12(8)							2(1)			1(1)	1	2(1)		3(2)	1		2(2)	12(7)	24(15)
	小計(27カ国)	7(1)	3(1)	8(6)		7(4)		7(5)	4(3)	36(20)							19(12)	1		4(3)	3(1)	6(3)	1(1)	16(9)	3	3	24(9)	80(38)	116(58)
合計	合計(99カ国・1地域)	45(12)	7(4)	18(12)	7(4)	92(39)	0	170(73)	18(10)	357(154)	0	0	0	12(2)	10(5)	22(7)	125(59)	52(39)	71(39)	16(12)	13(5)	591(302)	17(9)	658(285)	154(72)	34(19)	63(30)	1,794(871)	2,173(1,032)

※（　）内は女子の数で内数

（学務部国際交流課）

北大時報掲載記事事項一覧（令和5年掲載分）

総長告辞等

1月号　・年頭の挨拶
4月号　・告示（学士学位授与式、入学式）

全学ニュース

1月号
・総長年頭挨拶
・事務局が「災害等危機対策本部設置訓練」を実施
・令和4年度「寳金総長に伝えたい！」を開催
・令和4年度北海道地区大学SD研修「大学職員セミナー」を開催
・第15回（令和4年度第2回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催
・令和4年度現代日本学プログラム課程卒業論文ポスター発表会を開催
・令和4年度北海道留学生交流推進協議会総会をオンラインにて開催
・留学生のための「在留資格（ビザ）」無料相談会の開催
・塩野義製薬株式会社に感謝状を贈呈
・ワクチン研究開発拠点キックオフシンポジウムを開催
・サブサハラ・アフリカの協定校向けに短期留学プログラム（HUSTEP）を紹介
・ザンビア大学日本語短期講座の再開を支援
・アゼルバイジャンで日本留学フェアを開催
・寳金総長がベルギー王国ゲント大学と大学間交流協定に署名
・THE Campus Live Japan 2022に横田理事・副学長が登壇
・札幌市との包括連携協定を締結
・「国民との科学・技術対話」支援事業　アカデミックファンタジスタ 函館中部高校、札幌旭丘高校、札幌国際情報高校にて3名の研究者が講義を実施
・寳金総長がベトナム社会主義共和国・ホーチミン市及びマレーシア・クアラルンプール市を訪問
・令和4年度第8回　定例記者会見を開催
・北大フロンティア基金
・令和4年度 第3回部局・分野横断技術交流会「3Dプリンタを体験してみよう！」を開催
・2022年度 DEMOLA HOKKAIDO 3rd Batchファイナルデモンストレーションを実施
・サイエンス・フェスタ2022にてSDGsワークショップ 目指せ！みらい博士～明日を創るのは君だ～北海道大学×チ・カ・ホを実施
・第1回北大・地球研連携協定記念シンポジウムをハイブリッドで開催
・令和4年度第2回サステイナビリティ推進員会議を開催
・DX博士人材フェローシップ等にて「博士学生のための異分野交流会」を開催

2月号
・大学入学共通テストの実施
・北海道大学一般選抜の志願状況
・フロンティア入試Type I 最終合格者の発表
・国際総合入試合格者の発表
・フィリピン宇宙庁長官ジョエル・ジョゼフ・マルシアーノ・ジュニア氏に北海道大学名誉博士を授与
・博士学生支援プログラム採択学生向け確定申告セミナーを開催
・新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会を実施
・日印大学等フォーラムに寳金総長が参加
・「国民との科学・技術対話」支援事業　アカデミックファンタジスタ 旭川東高校、札幌北斗高校にて3名の研究者が講義を実施
・令和4年度第9回　定例記者会見を開催
・北大フロンティア基金
・第2回鈴木章賞授賞式及び化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD）第5回国際シンポジウムを開催
・第2回北海道大学×HBC子どもSDGs大学～未来のキーワード“カーボンニュートラル”って何？～を開催

3月号
・北海道大学一般選抜（前期日程・後期日程）及び私費外国人留学生（学部）入試の実施と合格者の発表
・故吉見理事・副学長を偲ぶ会を開催
・現代日本学プログラム課程「ゲストレクチャー・ワークショップシリーズ」を開催
・「国民との科学・技術対話」支援事業　アカデミックファンタジスタ　札幌北高校にて、2名の研究者が講義を実施
・令和4年度第10回　定例記者会見を開催
・北大フロンティア基金
・令和4年度 第1回部局・分野横断技術交流会「分析時の困りごと解決！異分野交流で未知の装置不調原因物質の正体を探る」を開催

・創成科学研究棟にて報道関係者向け説明会を実施 川﨑教行准教授（理学研究院）、圦本尚義教授（創成研究機構／理学研究院）が登壇
・創成研究機構ワクチン研究開発拠点が人獣共通感染症国際共同研究所と合同セミナーを開催
・日本初！デンマーク発スタートアップイベント「TechBBQ SAPPORO」を開催
・nano tech 2023展示会で最新のナノテク研究成果をアピール！
・SCSK北海道社とオープンイノベーションプログラム「ハッカソン」を開催
・大学院教育推進機構リカレント教育推進部が北大道新アカデミー告知動画を制作

4月号
・令和4年度学位記授与式の挙行
・令和5年度入学式の挙行
・「情報法政策学研究センター」を共同プロジェクト拠点として認定
・令和4年度「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式を挙行
・名誉教授に50氏
・令和4年度「北海道大学総長表彰」表彰式を挙行
・令和4年度「北海道大学職員表彰」表彰式を挙行
・令和5年度北海道大学の予算
・大学院教育推進機構リカレント教育推進部がキックオフシンポジウム「学びの道は北へ、大海へ～北大が目指すべきリカレント教育とは～」を開催
・令和4年度現代日本学プログラム課程学士学位記授与式を開催
・新渡戸カレッジ修了式（大学院教育コース）を挙行
・令和4年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－表彰式を挙行
・令和4年度北海道大学大塚賞授与式を挙行
・令和4年度北海道大学クラーク賞表彰式を挙行
・令和4年度北大えるむ賞授与式を挙行
・令和4年度「北海道大学企業研究セミナー」を開催
・仏語圏西アフリカ（セネガル及びコートジボワール）での日本留学フェアの開催
・サブサハラ・アフリカ地域向けに「大学院希望者向けオンライン日本留学フェア」を開催
・「北海道プライムバイオコミュニティ推進会議」を開催
・令和4年度第11回　定例記者会見を開催
・北大フロンティア基金
・第10回北海道大学オープンファシリティシンポジウム・オープンファシリティ施設見学会を開催
・農学研究院・化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD）合同シンポジウムを開催
・DX博士人材フェローシップ×産学・地域協働推進機構 北海道札幌西高等学校で探求学習の講義を実施
・「DEMOLA HOKKAIDO 5th Anniversary Alumni Meeting」を開催
・「スタートアップトークイベントHOKKAIDO INNOVATION HUNTER」を開催
・北海道Society5.0みらい創造ワークショップ最終報告会を実施
・G7気候・エネルギー・環境大臣会合プレイベント「ゼロカーボン社会に向けた大学と地域との連携～地球温暖化の防止、生物多様性の確保などSDGsの推進に向けて～」を開催
・「国民との科学・技術対話」支援事業　アカデミックファンタジスタ 札幌日大高校にて4名の研究者が講義を実施
・「研究者のためのスキルアップセミナー⑯ 伝えたいことを3分プレゼンにまとめるコツ」を開催

5月号
・春の叙勲に本学から4氏
・令和4年度Integrated Science Program（ISP）修了式を挙行
・令和4年度新渡戸カレッジ修了式（学部教育コース）を挙行
・新入留学生オリエンテーションを実施
・札幌市のIT関連業界による留学生向け合同企業説明会「SAPPORO IT JOB FAIR」開催
・ブルガリアフェアを開催～ソフィア大学「聖クリメント・オフリドスキ」との大学間交流協定締結を機に～
・2022年度春季国際インターンシップ全学成果報告会を開催
・令和5年度第1回　定例記者会見を開催
・北大フロンティア基金
・きたキッチンで「北海道大学フェア」を開催
・国際連携研究教育局（GI-CoRE）バイオサーフィス創薬グローバルステーション（GSD）が「第3回GI-CoREバイオサーフィス創薬グローバルステーション（GSD）国際シンポジウム・第1回学術変革領域研究（A）物質共生国際シンポジウム・第28回ファーマサイエンスフォーラム合同シンポジウム」を開催
・「国民との科学・技術対話」支援事業　アカデミックファンタジスタ 北海高校、札幌龍谷高校で5名の教員が講義を実施

6月号
・北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙行
・北海道大学ディスティングイッシュトリサーチャー称号授与式を挙行
・令和5年度新渡戸カレッジ入校式を開催

・「UNIVAS CUP 2022-23」北海道地区総合ランキング1位を獲得
・インターンシップで始める就活準備ガイダンスを開催～令和5年度キャリアセンター就職ガイダンスがスタート～
・東京大学・九州大学・北海道大学の3大学の学生合同グループワーク講座を開催
・全学インターンシップ履修説明会を開催～学部1・2年生向けのインターンシップも実施予定～
・札幌キャンパスで第20回「キャンパス・クリーン・デー」を実施
・愛媛県×北海道大学が語る地方創生講演会を開催
・令和5年度第2回定例記者会見を開催
・北大フロンティア基金
・産学・地域共同推進機構が「北大×サントリー 最高の買い物体験について考えようプロジェクト」を開催
・産学・地域共同推進機構が「つなぐ横丁 本気のお店屋さんごっこ」にて子供向け社会起業家育成クイズラリーを実施
・総長一行が米国カリフォルニア大学デービス校を訪問
・総長一行が米国マサチューセッツ大学アマースト校を訪問
・米国マサチューセッツ大学アマースト校から図書館長ら3名が来訪
・大学院留学生向け日本就職に関する情報提供セミナーEssential knowledge and tips for your job hunting in Japanを英語で開催
・「国民との科学・技術対話」支援事業　アカデミックファンタジスタ 2022年度は22名の教員が11校に向けて講義を実施

7月号
・特別功労賞を故吉見理事・副学長に授与
・「北海道ユニバーシティアライアンス」を設置
・名誉教授称号授与式の挙行
・第16回（令和5年度第1回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催
・令和5年度北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行
・キャリア支援・就職担当教職員の情報交換会を初開催
・ザンビアで日本留学フェアを開催
・駐日欧州連合ジャン＝エリック・パケ特命全権大使の講演会を開催
・令和5年度第3回定例記者会見を開催
・北大フロンティア基金
・創成研究機構化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD）が新棟落成記念行事を開催
・フード＆メディカルイノベーション国際拠点で施設公開イベントを実施 「学びと遊び」の融合が実現する、ビジネスゲーム・SDGs縁日・研究成果発表会を開催
・スポーツ×アントレプレナーシップ教育を目的に、バスケ教室を長沼町で開催
・産学・地域協働推進機構がスポカル2023inつどーむに出展
・国連大学ツェン　シャオメン欧州副学長の特別講演を実施
・ウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs（ハーツ）」を開始
・北海道大学、北海道電力株式会社及び公益財団法人北海道科学技術総合振興センターとの連携協定を締結
・博士後期課程留学生向け日本就職に関する情報提供セミナー「Basic understanding of job hunting in Japan for international Ph.D students」を英語で開催

8月号
・THEインパクトランキング4年連続国内1位を称える楯を拝受
・令和5年度北海道大学公開講座（全学企画）「社会変革の実現に向けた大学の役割：SDGs研究最前線」を開催
・大学院教育改革推進室がJAL×北海道大学 SDGsワークショップを開催
・令和5年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙行
・令和5年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙行
・令和5年度出入国在留管理制度説明会を実施
・春のガレージセールを開催
・令和5年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙行
・札幌キャンパスで特定外来生物防除を実施
・北大初となるネーミングライツ施設（Sky HALL）開設の記念式典を開催
・令和5年度第4回　定例記者会見を開催
・記者懇談会を開催
・北大フロンティア基金
・「若手技術職員先行育成プログラム」に係る職員研修を実施
・DXゼミナール～in札幌～北海道のスタートアップ企業たちの挑戦～
・メルボルン大学の先住民研究者一行が来訪
・GSDC（GLOBAL SUSTAINABLE DEVELOPMENT CONGRESS）2023に本学横田　篤理事・副学長が登壇
・令和5年度第1回サステイナビリティ推進員会議を開催
・大学院教育推進機構リカレント教育推進部が2023年度前期北大道新アカデミーを開講
・大学院生向けキャリア支援セミナー「日本と世界で働くためのLinkedIn入門」を英語・日本語で開催
・大学院生向け英語プレゼンテーションセミナーImproving Your Oral Presentation Skillsを英語で開催

9月号
・令和5年度オープンキャンパスを対面形式で開催
・北海道大学栄誉賞を横山　清氏に授与
・札幌キャンパスを駆け抜ける－北海道マラソン2023－
・現代日本学プログラム課程「ゲストレクチャー・ワークショップシリーズ」を開催
・経団連が「北海道プライムバイオコミュニティ」関連施設を視察
・建築家・安藤忠雄講演会「可能性は自分でつくれ」を開催
・北大フロンティア基金
・アンビシャス特別助教「交流会」を開催
・創成研究機構「ワクチン研究開発拠点研究発表会」を開催
・第32回国立七大学安全衛生管理協議会を開催
・アントレプレナーシップを学べるボードゲーム「チャレンジピッツァ」を「寺子屋プロジェクト」と協力して実施
・職業体験イベント「Mama Lady Party 札幌　in ピエトラセレーナ」に出展
・「三井アウトレットパーク札幌北広島×北海道大学　遊んで学ぼう！こどもSDGsワークショップイベント」を実施
・「スポーツ×アントレプレナーシップ教育」を留寿都村・長沼町で開催
・起業家教育プログラム「アントレクエスト 未来への好奇心を育む」を開催
・チュラロンコン大学・香港大学・北海道大学が共同でジョイントサマーキャンプを開催
・北キャンパス屋外空間整備にかかるオープンハウスを開催
・「留萌管内高等学校・北海道大学SDGs・ゼロカーボンプロジェクト」プレワークショップを開催
・「北海道大学×HBC　SDGs大学 in JTの森　積丹」を開催
・「人文・社会科学系大学院生のステップキャリア形成 Advanced COLA」を開催
・「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 今年度は31名の研究者が参加

10月号
・北海道ユニバーシティアライアンス第1回運営会議を開催
・半導体拠点形成推進本部を設置
・令和5年度北海道大学インターンシップを実施
・令和5年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－被表彰者の決定
・令和5年度小島三司奨学金受給者の決定
・キャリアセンター主催　学生が企業とビジネスゲームに挑戦
・ウガンダ・ケニアで日本留学フェアを開催
・オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」の開所式を開催
・令和5年度第5回 定例記者会見を開催
・北大フロンティア基金
・第3回鈴木章賞授賞式及び化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD） 第6回国際シンポジウムを開催
・海外ファンド検索データベース「Pivot-RP」利用説明会を英語・日本語で開催
・北海道大学北キャンパスシンポジウム～北海道発スタートアップの成長を加速させる取組み～
・No Maps CONFERENCE HOKKAIDO UNIV.　～大学発スタートアップの魅力や実情を話しちゃいます～
・NoMaps2023「WELLNESS」と「STUDENTS」に参加
・官学連携プログラム「カーボンニュートラル夏季短期学習プログラム」を開催
・大学院教育推進機構が科学技術コミュニケーションの特別公開授業を実施
・博士後期課程留学生向け自己PRシート作成ワークショップ “Self Promotion sheet”- Super relevant material for PhD student's job huntingを英語で開催
・「国民との科学・技術対話」支援事業　アカデミックファンタジスタ

11月号
・創基150周年カウントダウンイベント「北海道大学ホームカミングデー2023」を開催
・秋の叙勲に本学から3氏
・北海道大学職員採用試験内定者懇談会を開催
・次世代の女性教員を顕彰する「桂田芳枝賞」授与式を挙行
・第40回北海道大学教育ワークショップ「新任教員のためのスタートアップ研修」を開催
・令和5年度ISP修了証書授与式を挙行
・令和5年度ISP入学式を挙行
・ベスト・エクセレント・ティーチャー表彰式を挙行
・新入留学生オリエンテーションを実施
・秋のガレージセールを開催
・高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」を開催
・2023年度国際インターンシップ全学成果報告会を開催
・第二回日印大学等フォーラムに髙橋　彩理事・副学長が参加
・BioJapan2023に「北海道プライムバイオコミュニティ」が出展
・令和5年度第6回　定例記者会見を開催
・横田　篤理事・副学長が「東京サピアアカデミー」で講義

・北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
・「若手技術職員先行育成プログラム」に係る職員研修を実施
・「令和5年度技術職員の体験型英語研修」を開催
・令和5年度 第1回部局・分野横断技術交流会「『動画』を教育・研究・フィールドワークに活用しよう」を開催
・創成研究機構化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD）が「Listプラットフォーム」キックオフシンポジウムを開催
・国際インターンシップ参加学生がシンガポールの3大学の学生とワークショップで活発な議論を展開
・産学・地域協働推進機構が海外スタートアップイベント「TECH BBQ」を学生と共に視察！
・本学にて「UNITTアニュアルカンファレンス2023」を共同開催
・産学・地域協働推進機構が「北海道大学新技術説明会」を開催
・国連大学SDG大学連携プラットフォーム（SDG-UP）での事例紹介
・「アスリート×専門家による 気候変動に関するトークセッション」を開催
・雨龍研究林が自然共生サイトに認定
・博士人材と企業の情報交換会 第53回「赤い糸会」を対面で開催
・大学院留学生向けアカデミックキャリアガイダンス“Building Academic Career in Japan for International Students”を英語で開催
・サイエンスレクチャー2023「目の前が宇宙に！鉱山に！これがバーチャルリアリティー」を開催
・「国民との科学・技術対話」支援事業　アカデミックファンタジスタ　札幌開成SSH・北大CoSMOSとの連携授業を実施
・広報・社会連携本部、ダイバーシティ・インクルージョン推進本部及び社会共創部広報課が合同セミナー「何から始める？多様性に配慮した情報発信」を開催

12月号
・令和5年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏
・大学入学共通テスト　本学一般選抜個別学力検査等　実施体制等の決定
・フロンティア入試合格者の発表
・国際総合入試合格者の発表
・帰国生徒選抜合格者の発表
・故 中村睦男先生を偲ぶ会を開催
・令和5年度北海道大学総長奨励金留学生採用証書授与式を挙行
・札幌商工会議所とキャリアセンターが共催で「留学生のための出張合同企業説明会in北海道大学」を開催
・2023年度留学生のための「在留資格（ビザ）」無料相談の開催
・全学インターンシップ成果発表会（国内）及び経済同友会連携インターンシップ成果発表会を開催
・日本航空株式会社と航空業界を学ぶ講座を開催
・日本学術会議と学術講演会「人間と野生生物の共生のために」を開催
・サブサハラ・アフリカ地域対象オンライン日本留学フェアを開催
・MIRAI2.0 Research & Innovation Week 2023に出席
・令和5年度第7回目　定例記者会見を開催
・北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
・「若手技術職員先行育成プログラム」に係る職員研修を実施
・令和5年度第2回部局・分野横断技術交流会「電気系修理技術習得のための基礎講座」を開催
・令和5年度北海道大学進学相談会
・創成研究機構化学反応創成研究拠点が「第12回世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）サイエンスシンポジウム」を開催
・産学・地域協働推進機構が「まちなかロゲイニングin北海道大学」を実施～国際交流を促進する新たな取り組み～
・Social Innovation X （クロス）2023 を開催
・「こどもの未来のためのフォーラム」及び「第26回北海道大学－ソウル大学校ジョイントシンポジウム」を開催
・第2回地球研・北大連携シンポジウムを開催
・北海道大学×STV SDGsデー2023を開催
・WOMAN EXPO 2023 Winterで北大ブランドを紹介
・2023年度古河講堂のパープル・ライトアップを実施
・「国民との科学・技術対話」支援事業　アカデミックファンタジスタ札幌南高校にて7名の研究者が講義を実施

部局ニュース

1月号
・文学院が北海学園大学文学研究科と特別聴講学生に関する協定を締結
・理学研究院で消防訓練を実施
・生命科学院がアクティブラーニング形式の「Research Ethics Workshop for IGP students（研究倫理ワークショップ）」を開催
・第17回医学研究院連携研究センター研究成果発表会をオンライン開催
・歯学研究院で「動物供養祭」を挙行
・工学系部局で安全衛生管理講演会を開催
・低温科学研究所が金沢大学環日本海域環境研究センターと連携協定を締結

・スラブ・ユーラシア研究センターが冬期国際シンポジウムを開催
・第2回 北の森林サイエンスCAFE開催
・苫小牧市と北方生物圏フィールド科学センター苫小牧研究林が包括連携協定を締結
・和歌山研究林でアートプロジェクト「森のちからXIII」を開催

2月号
・工学系部局で「こころの健康セミナー」を開催
・令和4年度第1回農学研究院FD研修会を開催
・環境健康科学研究教育センター、保健科学研究院及び人獣共通感染症国際共同研究所が第4回世界保健機関西太平洋地域協力センターフォーラムに参加
・「森のたんけん隊2023冬」を開催
・令和4年度北海道大学北方生物圏フィールド科学センター耕地圏・水圏ステーション技術職員専門研修を開催

3月号
・プラス・ミュージアム・プログラム2022年度「クロージングフェスタ」を開催
・文学部書香の森展示スペースにて4本の企画展示を開催
・スラブ・ユーラシア研究センター国際シンポジウム「ウクライナとロシアの生存戦略：開戦から1年を迎えて」開催
・先端生命科学研究院でFDSD研修会「総会2022」を開催
・令和5年度薬学実務実習開始セレモニーを挙行
・低温科学研究所がベルリン応用科学大学生命工学部と部局間交流協定を締結

4月号
・経済学院がベスト・チューター賞授与式を開催
・令和4年度北海道大学物質科学フロンティアを開拓する Ambitiousリーダー育成プログラム修了式を開催
・理学研究院等にて「スマート物質科学人材育成コンソーシアム特別セミナー」を開催
・生命科学院博士後期課程科目「少人数討論型育成プログラム」（北大帝人ブレーンストーミングワークショップ）を実施
・総合博物館で第15回「卒論ポスター発表会」を開催
・医学部が令和4年度最終講義・退職記念式典を挙行
・薬学研究院が「第15回薬学研究院研究発表会」を開催
・令和4年度第2回農学研究院FD研修会を開催
・国際広報メディア・観光学院にて留学生（研究生）説明会を実施
・生物生産研究農場生産の鶏卵をホテルの朝食メニューに提供
・脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第19期修了生に修了証書授与

5月号
・令和5年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム第3期生採用式を開催
・先端生命科学研究院の業績功労者を表彰
・歯学研究院でAMED申請セミナーを開催
・工学研究院が北海道ガス株式会社と連携協定締結式・記者会見を開催
・セブン－イレブン北海道大学工学部店オープン
・水産科学研究院と北海道美深町及びソフトバンクが次世代のチョウザメ養殖のための産学官連携協定を締結
・東アジアメディア研究センター主催のジャーナリズムシンポジウムを開催
・環境健康科学研究教育センターがG7環境大臣会合に先駆けた若者との共創プロジェクトを開催
・脳科学研究教育センター脳科学専攻の開講式を挙行

6月号
・文学研究院FD「学生指導とハラスメント行動をめぐる本学の現況について」を開催
・函館キャンパスで「春のキャンパス一斉清掃」を実施
・水産科学研究院「水産科学未来人材育成館新営その他工事の安全祈願祭」を挙行
・メディア・コミュニケーション研究院が中国人民大学と初の学術交流
・環境健康科学研究教育センターが調査参加者の高校生に向けて見学会を実施
・桂田静枝・芳枝姉妹の旧蔵資料を大学文書館で受贈

7月号
・経済学部成績優秀者表彰式を挙行
・先端生命科学研究院ソフトマター国際連携ユニット（SMCR）がLeNetキックオフシンポジウムを開催
・環境健康科学研究教育センター、保健科学研究院がHSI関連イベント「WHOオフィサーと語る～地球の未来とSDGs～」を開催
・令和5年度国公立大学歯学部長・歯学部附属病院長会議等を開催
・ボゴール農科大学開催のIPB Job Fair 2023にHokkaido University Indonesia Front Officeが参加
・農学研究院で第14回Sapporo Alumni Lecturesを開催
・水産学部附属練習船「おしょろ丸」北極航海へ出港
・環境科学院で北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」を開催
・メディア・コミュニケーション研究院が中国・河北大学と初の学術会議を開催
・「見て、聞いて、触って楽しむ最先端科学」研究所・センター等合同で一般公開を開催
・第3回 北の森林サイエンスCAFE-地域の人々が集う化学反応の場所へ

・観光学高等研究センターが「さっぽろラウンドウォークオープン記念シンポジウム」を開催

8月号
・文学研究院FD「デスクネッツネオ（desknet's NEO）の活用について」を開催
・会計専門職大学院が公認会計士制度説明会を開催
・次世代生命科学共同研究プロジェクト報告会を開催
・令和5年度理学院優秀研究奨励賞授賞式を挙行
・歯学部で台北医学大学歯学部生との交換留学を実施
・水産科学研究院・サステイナビリティ推進機構が「HBC 赤レンガプレミアムフェスト」に参加
・東アジアメディア研究センターで『ミャンマーの民主化を求めて』出版記念トークショーを実施
・低温科学研究所が中谷宇吉郎雪の科学館との連携協定に基づき出前授業及び講演会を実施
・駐日欧州連合代表部代表・特命全権大使が附属図書館を来訪
・メルボルン大学の家畜生産生理研究者一行が来訪
・新ブランド「北大トラウト」が完成
・保健センターで第9回健康キャンパス北大「正しく知ろうHPVワクチン 専門家が伝える子宮頸がん予防」に関する講演会を開催
・スラブ・ユーラシア研究センター夏期国際シンポジウム「崩壊の局面：アフロ・ユーラシアから『14世紀の危機』を思考する」開催

9月号
・公共政策大学院が「持続可能な地域公共交通の構築に向けて―市町村の役割に注目して」をテーマに「2023年度HOPS地方議員・地方公務員向けサマースクール」を開催
・総合博物館が学生企画ワークショップ「おえかきミュージアム」を開催
・医学研究院 医療AI開発者養成プログラム及び北海道大学病院 医療AI 研究開発センターが「第2回北海道大学医療AIシンポジウム」を開催
・北海道大学納骨堂慰霊式を挙行
・歯学研究院で「若手研究者のための科研費申請書の書き方セミナー」を開催
・薬学部が「第24回生涯教育特別講座夏季講演会」を開催
・薬学研究院が「第17回薬学研究院研究発表会」を開催
・農学部・農学院とシンガポール国立大学間における「Joint Summer Programme in Japan and Singapore」～Agriculture as a domestic culture & industry in a new globalization era～を対面開催
・農学院・農学研究院において「留学生見学旅行」を開催
・令和5年度水産学部公開講座「海をまるごとサイエンス！」が終了
・水産学部附属練習船「おしょろ丸」北極航海から帰港
・附属図書館で Mendeleyオンライン講習会を開催
・苫小牧研究林で森林炭素量を網羅的に調査するキャンペーン観測を実施
・北方生物圏フィールド科学センターで「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」「体験！ ベリー研究の最前線"君も育種家になろう！"」を開催
・和歌山研究林で「親子木工教室」を開催
・スラブ・ユーラシア研究センターがサマースクールを開催
・吉﨑十七・原田正由旧蔵資料を大学文書館で受贈

10月号
・令和5年度分島亮研究奨励金授与式を挙行
・総合博物館が博物館実習を実施
・医学研究院医理工学グローバルセンターが国際シンポジウム「The 10th GCB Biomedical Science and Engineering Symposium」を開催
・医学研究院医理工学グローバルセンターが第6回GCB分子生物医科学・ 診断学サマースクール及び第10回GCB医学物理サマースクールを開催
・動物慰霊式を挙行
・薬学研究院寄附分野「認知症先進予防・解析学分野」感謝状贈呈式及び公開シンポジウムを開催
・スマート農業教育研究センター開所式を挙行
・地球環境科学研究院が令和5年度公開講座「気象・気候研究の最前線：観測、理解、未来」を実施
・メディア・コミュニケーション研究院で「北海道大学研究集会2023」を開催
・国際広報メディア・観光学院　韓国・ソウルにて留学生向け説明会を実施
・シンガポール・テマセク・ポリテクニック（Temasek Polytechnic）が国際広報メディア・観光学院を訪問
・低温科学研究所所有の人工雪製作装置等が令和5年度国立科学博物館「重要科学技術史資料（未来技術遺産）」として登録
・北方生物圏フィールド科学センターで「じゃがいも掘り」を開催
・観光学高等研究センターと株式会社ゴールドウインが連携協定を締結
・環境健康科学研究教育センターが令和5年度前期「社会と健康」修了生にディプロマ授与

11月号
・文学研究院FD「バイスタンダー・トレーニングを用いたダイバーシティ推進に関するFD」を開催
・経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターがシンポジウムを開催

・「社会体験ワークショップ」オープンコースウェアで公開～北海道大学、北洋銀行ほかによる社会体験のための実践的授業～
・2023年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム第4・5期生採用式を開催
・令和5年度北海道大学物質科学フロンティアを開拓するアンビシャスリーダー育成プログラム修了式を開催
・医学部・歯学部合同慰霊式を挙行
・保健科学研究院長一行がメルボルン大学を訪問
・FD研修「工学研究院・情報科学研究院・量子集積エレクトロニクス研究センター ハラスメント防止研修会」を開催
・北海道大学ワイン教育研究センター開所式を挙行
・国際シンポジウム「Solutions to address food and environmental problems－ Visions for the future of Africa －食料問題・環境問題の解決に向けて―アフリカの将来像を描く―」を開催
・農学部において第38回あぐり大学「炭は未来のエネルギー」を開催
・獣医学研究院及び人獣共通感染症国際共同研究所で動物慰霊式を挙行
・附属図書館で「防災訓練」の実施
・遺伝子病制御研究所で動物慰霊式を挙行
・「脳科学研究教育センター合宿研修」の開催

12月号
・経済学研究院・経済学院・経済学部で令和5年度外国人留学生懇親会を開催
・経済学部が札幌国税局長の特別講演会を開催
・保健科学研究院公開講座「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」を開催
・令和5年度　医理工学院修士課程研究発表会
・令和5年度　薬学部成績優秀賞授与式を挙行
・工学系部局で安全衛生管理講演会を開催
・函館キャンパスで防災訓練を実施
・メディア・コミュニケーション研究院がシンポジウム「多層言語環境社会におけるCommunicationとMediation」を開催
・国際広報メディア・観光学院が、メルボルン大学・ヘルシンキ大学・デュッセルドルフ大学及びヴィクトリア大学ウェリントンとの教育・研究交流「TLLPスタディ・ウィーク」を開催
・環境科学院・地球環境科学研究院でFD研修会を開催
・人獣共通感染症国際共同研究所と創成研究機構ワクチン研究開発拠点が国際シンポジウム「第11回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議」を開催
・スラブ・ユーラシア研究センター公開講座「どうなる？どうする？日露関係」を開催
・情報基盤センター創立20周年記念式典及び記念講演会を開催
・ニュージーランド大使館・りんご視察団一行が余市果樹園を視察
・「脳科学研究教育センター創立20周年記念シンポジウム」の開催
・パネル企画展示 「カラフトナヨロ惣乙名文書（ヤエンコロアイヌ文書）展」を開催
・北海道大学病院創立100周年記念式典・記念講演会・記念祝賀会を挙行

※それ以外の項目については、記載を省略しています。

編集メモ

● 北海道大学病院に今年度新しくパーソナルヘルスセンター（PHC）が開設されました。12月12日（火）に寳金清博総長がPHCを訪問し、最初の健診者としてゲノム健診を受けられました。今後、PHCでは、遺伝子学的検査を活用した予防医療として、一般の受検者を対象に、エグゼクティブプラン（全ゲノム検査）を来年1月頃から、ウェルネスプラン（高血圧、ダイアベティス（糖尿病）や認知症などを対象）を来年春頃から開始予定です。
パーソナルヘルスセンターについての詳細はこちら
https://www.huhp.hokudai.ac.jp/personal-health-center/

北海道大学病院に新設されたパーソナルヘルスセンターで看板のシールを剥がす寳金総長と、今野　哲センター長

採血をする寳金総長

裏表紙メモ

今月のキャンパス風景は、南門です。南門は1904年に札幌農学校の正門として建てられました。その後、1936年に現在の正門が建てられ、南門は現在の場所に移されました。レトロな雰囲気を感じさせる赤いレンガの出で立ちは札幌農学校時代から変わらず、100年以上にわたり多くの学生や教職員を迎えてきました。2023年も最後の月となり、日に日に寒さを増していますが、新年も変わらず南門をくぐれるように、体調管理には気をつけて年末年始をお過ごしください。

キャンパス風景 45 南門（北8条西6丁目）

北大時報 ⑫　No.837　　令和5年12月発行

北海道大学社会共創部広報課　〒060－0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL：（011）706－2610 ／ FAX：（011）706－2092 ／ E-mail : kouhou@jimu.hokudai.ac.jp
https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html